山口県埋蔵文化財センター調査報告　第22集

大崎遺跡（木船地区）

2001

財団法人　山口県教育財団
山口県埋蔵文化財センター

遺跡上空より西目山を望む

序

私たちにとって先人が残した文化財は、ふるさとの歴史を理解する上で、大変貴重な財産です。この文化や伝統を継承することは、21世紀に向けて活力と潤いに満ちた社会を創造をするために欠くことのできないものです。これらの文化財を損なうことなく未来へ伝えていくことは、今、私たちに与えられた課題であるといえます。

遺跡の保護については、埋蔵文化財保護の立場から基本的には現状保存が望ましいものでありますが、やむを得ず消失することになった地域については、発掘調査を実施し、記録保存を行うこととしております。

本書は、山口県の委託を受けて、財団法人山口県教育財団が実施した防府・高井県営住宅整備工事に伴う大崎遺跡（木船地区）の発掘調査記録です。

調査の結果、弥生時代から中世にかけての集落跡と河川跡が発見されました。また、本遺跡からは、弥生土器をはじめとする数多くの土器類や木製品・石製品などが出土しました。これらの資料は当時の人々のくらしを考える上できわめて貴重で、ふるさとの歴史に新しい事実を加えるものです。

本書が、文化財保護に対する理解を深め、教育並びに学術研究としての資料、また、郷土史の基礎資料として、広く活用されることを願うものであります。

おわりに、調査の実施にあたって御協力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成13年３月

財団法人山口県教育財団
理事長　　牛見　正彦

例　言

1．　本書は、平成12年度に実施した、大崎遺跡（木船地区）（山口県防府市大字大崎）の発掘調査報告書である。

2．　調査は、防府・高井県営住宅整備工事に伴い、財団法人山口県教育財団が山口県の委託を受けて実施したものである。

3．　調査組織は次の通りである。

調査主体　財団法人山口県教育財団　山口県埋蔵文化財センター

調査担当　指導主事　　西田　　宏

　　指導主事　　西尾　健司

4．　調査に当たっては、山口県教育委員会、山口県土木建築部、山口県住宅供給公社、防府市教育委員会並びに地元関係各位から協力・援助を得た。

5．　本書の第１図は、国土地理院発行２万５千分の１地形図「防府」を複製使用、第２図は山口県住宅供給公社提供のものである。第25図は、山口県土木建築部住宅課提供の資料をもとに作成したものである。

6．　出土遺物のうち石製品の石材鑑定は、山口県立山口博物館専門学芸員　亀谷　敦氏に依頼した。

なお、石材鑑定は表面観察によるものである。また、墨書土器の文字の判読は、山口県文書館副館長　戸島　昭氏に依頼した。

7．　本書に使用した方位は、国土座標（第３座標系）の北で示し、標高は海抜標高で表した。

8．　本書に使用した土色の色調の表記は、農林省農林水産技術会議事務局(監修)『新版標準土色帖』Munsell方式に従った。

9．　図版中の遺物番号は、実測図の遺物番号と対応する。

10．　土器実測図の断面は、黒塗りが須恵器を表す。

11．　本書で使用した遺構略号は、次のとおりである。

ＳＢ：建物　ＳＫ：土坑　ＳＰ：柱穴　ＳＥ：井戸　ＳＤ：溝状遺構　ＳＸ：不明遺構

ＴＲ：トレンチ

12．　本書の作成・執筆は、西田・西尾が分担作成し、西田が編集した。

本 文 目 次

Ⅰ　遺跡の位置と環境 …… 1
Ⅱ　調査の経緯と概要 …… 3
Ⅲ　遺　構 …… 9
　1　掘立柱建物
　2　土坑
　3　井戸
　4　柱穴
　5　不明遺構
　6　河川跡
Ⅳ　遺　物 …… 21
Ⅴ　ま と め …… 37

図 版 目 次

図版1　北東より大崎遺跡を望む　1地区全景
図版2　2地区全景　2地区西側
図版3　1地区遺物包含層内遺物出土状況①
図版4　1地区遺物包含層内遺物出土状況②
図版5　1地区杭列検出状況①・②・③
　1地区杭列内遺物出土状況
図版6　SE1遺物出土状況　SK3・11　SE1完掘
図版7　SK2・4・7・13完掘　SK1遺物出土状況
図版8　SK6・8・10完掘　SK5・9遺物出土状況
図版9　SB1・2　SP3・7・10遺物出土状況
図版10　SX3・5・6・7完掘　SX8・SD1遺物出土状況
　SD1土層断面
図版11　TR3・4・5完掘
　TR4北西壁・TR5北東壁土層断面
　2地区遺物包含層内遺物出土状況①
図版12　2地区遺物包含層内遺物出土状況②
図版13　出土遺物（弥生土器）
図版14　出土遺物（弥生土器・須恵器）
図版15　出土遺物（土師器1）
図版16　出土遺物（土師器2）
図版17　出土遺物（磁器・土師器・瓦質土器）
図版18　出土遺物（瓦質土器）
図版19　出土遺物（土製品・鉄製品
　・木製品）
図版20　出土遺物（木製品・石製品）

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡 ……2
第２図　調査区設定図 ……5
第３図　１地区の様子 ……6
第４図　２地区の様子……7・8
第５図　SB1・2実測図 ……10
第６図　SK1・2・3・4・5　SX5実測図……11
第７図　SK6・7・8・9・10・11
　　・12・13実測図……12
第８図　SE1 SP3・10
　　SX3・4・6・7・8実測図……14
第９図　１地区土層断面図……17
第10図　２地区トレンチ土層断面図(1) ……18
第11図　２地区トレンチ土層断面図(2) …19・20
第12図　弥生土器実測図①……22
第13図　弥生土器実測図②……23
第14図　須恵器実測図……23
第15図　土師器実測図……24
第16図　磁器実測図……25
第17図　土師器・瓦質土器実測図……25
第18図　瓦質土器実測図……26
第19図　土製品実測図……27
第20図　鉄製品実測図……27
第21図　木製品実測図①……28
第22図　木製品実測図②……29
第23図　石製品実測図①……29
第24図　石製品実測図②……30
第25図　ボーリング実施位置
　　及びボーリング柱状図……38

表 目 次

第１表　土器・土製品観察表（１）……31
第２表　土器・土製品観察表（２）……32
第３表　土器・土製品観察表（３）……33
第４表　土器・土製品観察表（４）……34
第５表　土器・土製品観察表（５）……35
第６表　鉄製品観察表……35
第７表　木製品観察表（１）……35
第８表　木製品観察表（２）……36
第９表　石製品観察表……36

Ⅰ　遺跡の位置と環境

大崎遺跡は、山口県防府市大字大崎木船に所在する。弥生・古墳時代から中世にわたる集落を中心とする複合遺跡である。「大崎」という地名の由来は、周防一宮玉祖神社の大前にある村の意とも（注進案）、大なる崎の意とも言われる（地名淵鑑）。大崎の字の初出は大永２年(1522)で、大前という字が古くは使われていた。地名の由来に玉祖神社との関係が取り沙汰されるなど、現在の「大崎」の場所とはやや距たりがある。

本遺跡は、県下最大の沖積平野である防府平野の北西部にあたり、剣川の右岸、佐波川の右岸700ｍ、河口から約5.5㎞の地点で、市街地より北西2.6㎞の地点にある。標高約10ｍ～11ｍの緩やかな傾斜地が遺跡中央部を南向きに張り出しており、東西には2ｍ以上一気に落ち込む。剣川は、遺跡の南方を北東から南西方向に緩やかに流れ、佐波川に合流する。右田ヶ岳を源流とする剣川は勝坂を一気に流れ落ち、遺跡付近ではすでに緩流となっていたと推定される。おそらくは蛇行を繰り返し、水害のたびに流路を変えたり、湿地帯を形成したりしていたと考えられる。また、遺跡の北方向背後には標高312ｍの西目山の尾根筋が広がり、北東方向には標高426ｍの右田ヶ岳を望むことができる。双方の大部分が花崗岩質の岩石を基盤としており、風化による巨岩が中腹から頂上部にかけて至る所に顔を出し、独特の景観を呈している。

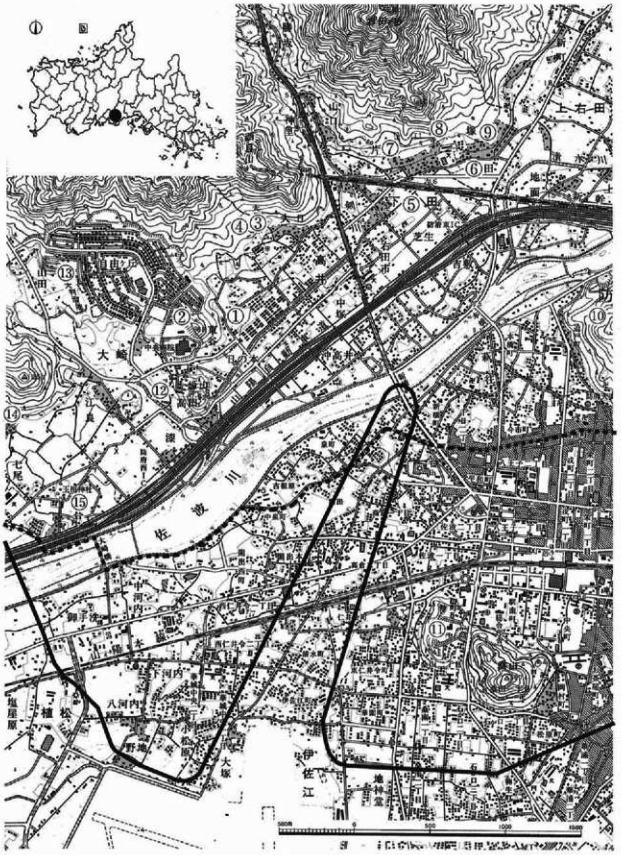
周辺の弥生時代の遺跡としては、貯蔵穴群が発見された大崎遺跡をはじめ、奥正権寺遺跡、片山遺跡や高井山寄遺跡、天徳寺遺跡、井上山遺跡、右田・一丁田遺跡、下右田遺跡など、狭い範囲に立地条件の異なる多数の遺跡が確認されている。古代人の生活にとって重要な川をもち、南に西に海を控え、北に東に広い山麓緩斜面や丘陵地帯とそれにつづく沖積地を有し、農耕は勿論山地の狩猟、海による漁や製塩にも好適な土地であり、恵まれた居住地であったと推察される。

古墳時代の遺跡としては、家形石棺を有す国指定史跡の大日古墳（前方後円墳）をはじめとして、玉祖神社境内遺跡、向山七尾須恵器窯跡、片山古墳群、天神山古墳群、など弥生時代にもまして遺跡数が多く、古墳の質も高い。これらの事実からも、地形・気候に恵まれ、交通の要所であるこの防府に、多くの豪族が居をかまえ、大和文化と北部九州の影響を多分に受けた文化を共に取り入れた融合文化が栄えていたことが窺える。

古代・中世にはいると、玉祖遺跡、下右田遺跡、姫山遺跡などの大集落や墓の遺跡が多く発見されている。奈良時代には周防国府が設けられ、中世まで周防国の政治・経済・文化・軍事の中心地として発展した。交通では、寛平元年に停廃されるまで大前駅が置かれていた。具体的な位置については定かでないが、駅家間の距離が近いことや駅制の衰退で廃止されたと考えられる。遺跡の南方約１㎞を東西に旧山陽道が走り、江戸時代まで「大崎渡し」があったとされている。山口街道との分岐点にも近く、交通の要地であったことは容易に推察できる。また、標高2.5ｍの等高線は、中世における海岸線とほぼ一致していることから、中世以前には、この防府平野も大半は海面下にあったと考えられる（第１図参照）。旧海外線は、遺跡の南方約１㎞まで迫り、穏やかで遠浅の内海が広がり景観は現在と大きく異なっていたであろう。

参考文献

防府市教育委員会	『防府市史　上巻』	１９８０	山口県地方史学会	『防長地下上中 二』	１９７８
山口県文書館	『防長風土注進案』	１９６４	防府市教育委員会	『山口郡右田村史』	
山口県教育委員会	『玉祖遺跡・西小路遺跡』	１９８３	山口県教育委員会	『奥正権寺遺跡Ⅰ』	１９８４
山口県教育委員会	『奥正権寺遺跡Ⅱ・大崎岡古墳群・大崎遺跡』	１９８５			
防府市教育委員会	『下右田遺跡　第９・10・13・14・15・17次発掘調査概要』	１９９９			



①大崎遺跡（木崎地区）　②大崎遺跡　③大日古墳　④高井山寄古墳群　⑤下右田遺跡
⑥右田・一丁田遺跡　⑦片山古墳群　⑧天徳寺遺跡　⑨塚原古墳群　⑩迫戸古墳　⑪井上山遺跡
⑫弘法古鏡遺跡　⑬大判池須恵器窯跡　⑭向山七尾須恵器窯跡　⑮玉祖遺跡

▪▪▪▪▪：山陽道　　▬▬▬：中世以前の海岸線

第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡

Ⅱ　調査の経緯と概要

山口県住宅供給公社は、県営住宅の老朽化に伴い、防府・高井県営住宅整備工事を計画した。当該地区における埋蔵文化財の取り扱いについて相談を受けた山口県教育委員会文化財保護課は、計画範囲が周知の下右田遺跡の埋蔵文化財包蔵地に含まれることから、事前の予備調査の必要性を指摘した。そこで、山口県住宅供給公社から調査依頼を受けた防府市教育委員会文化財保護課は、平成11年７月と10月の２度にわたって計画区域内の予備調査を行った。その結果、弥生時代から平安時代に及ぶ集落跡の埋存が予測された。この調査の結果を受け、関係機関（山口県住宅課／山口県住宅供給公社／防府市教育委員会文化財保護課／山口県教委文化財保護課）での協議の結果、工事予定区域内北側の2,800㎡について発掘調査が必要であると判断された。しかし、防府市教育委員会では平成12年度の発掘調査計画が過密状況にあり、対応が困難であるとの結論に達し、山口県住宅供給公社は財団法人山口県教育財団／山口県埋蔵文化財センターに発掘調査を受託することとなった。

平成12年４月中旬より事前の諸準備を開始した。現地における関係諸機関との綿密な打ち合わせを行うとともに、近隣の小・中学校、警察署、消防署等に安全確保のための協力と理解を要請した後、５月８日より機材を搬入し、本格的な発掘調査を開始した。

本年度は、工事区域北側約2,800㎡を調査対象とし、西側の東西に細長い地区を１地区、東側の広い地区を２地区と、２つの調査区を設定した。

５月９日より、１地区において土層や遺構の分布状況等を詳細に把握するためトレンチを設け、人力によって掘り下げていった。その結果、基本的には、耕作土以下、盤土、黄橙色地山の層序であるが、南方向に向かって地山が大きく傾斜して落ち込んでいることと、分厚い遺物包含層が存在することを確認した。５月11日に、土色の変化に細心の注意をはらいながら重機を使って表土除去を行った。翌日から人力による遺構検出を開始したが、後世の水田開発の際に削平を受けており、遺構ははとんど確認できなかった。遺物包含層の掘り込みについては、５月16日より再びトレンチを設け人力で掘り下げていった。湧水による足場の悪さに加え、日照りによる地表面の乾燥と、作業は困難な状況が続いたが、調査の進捗状況は比較的順調であった。その結果、遺物包含層上層からは瓦質土器・土師質土器・鞴の羽口・スラグ、中層からは白磁・青磁・須恵器、下層からは弥生土器、石斧などの多数の貴重な資料を検出することができた。ところが、１地区調査の終盤の５月27日の集中豪雨により、調査区が完全に水没するという事態に陥った。これにより、排水に時間を要し２日間全く作業が行えなかった。周辺との標高差もあり、その後も発掘作業期間中ずっと降雨による調査区の水没や調査区内の排水、周辺住民への安全対策に悩まされることとなった。

重機による表土除去

6月6日には、地元の右田小学校6年生、徳地町の串小学校の3年生以上の児童が発掘体験学習に訪れた。6月9日には、地元の右田中学校の生徒も発掘体験に訪れた。

6月7日に1地区の発掘調査を終了し、翌日より2地区の調査へと移っていった。1地区の時と同様にトレンチ調査を行い、土層や遺構の分布状況を把握した後、重機による表土除去を行った。しかし、当初の予想より北東側の落ち込みが激しく、地域住民の安全を考慮し、調査の進捗状況をみて2度に分けて表土除去を行うこととした。遺構については、水田化の際の削平を受け、浅いものが多いものの、弥生時代や古代の土坑をはじめ、柱穴、溝、掘立柱建物跡など多数を検出した。2地区の約半分の面積をしめる遺物包含層については、調査期間を考慮してトレンチによる調査とした。掘り込みについては、深いところで2m以上掘り下げるために、トレンチの幅や壁の角度については十分安全に配慮した。また、暑い季節であったため、作業員の健康状態にも十分気を配って調査を進めた。その結果、1地区で出土した遺物の内容に加え、古墳時代の滑石製品や古代と思われる木製品を多数検出することができた。9月6日に空中撮影を実施した。9月17日の現地説明会では、研究者の他に近郊から一般の住民や学生、生徒など多数の参加者を得た。発掘調査に対する地元の関心の高さを改めて実感した。9月19日には機材を搬出し、以降は記録作成を行った。9月29日に現地で受託者立ち会いのうえ、現場の引き渡しを行い、現地での調査はすべて終了した。

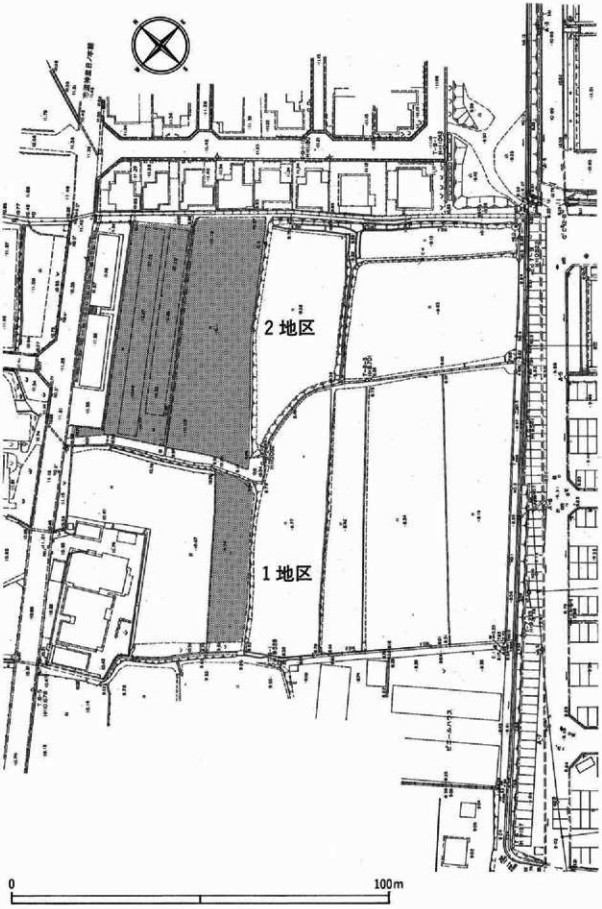
本調査では、前期のように弥生から中世にかけての貴重な資料が多数出土した。5月から始まった発掘調査は、降雨による多少の困難に見舞われたが、事故やケガもなくほぼ順調に終えることができた。これも、関係各位の多大なご理解・ご協力・ご支援によるものと感謝する。

遺構掘り込み

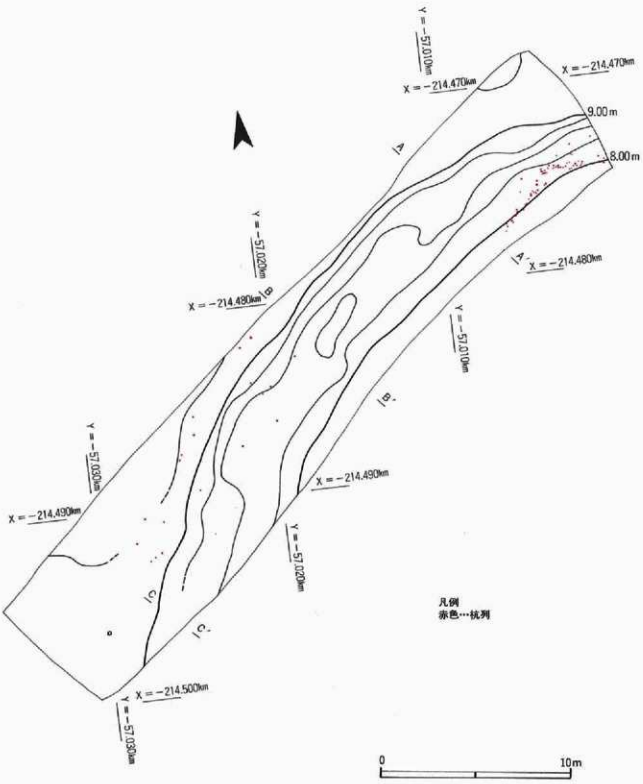
発掘体験学習

空中撮影

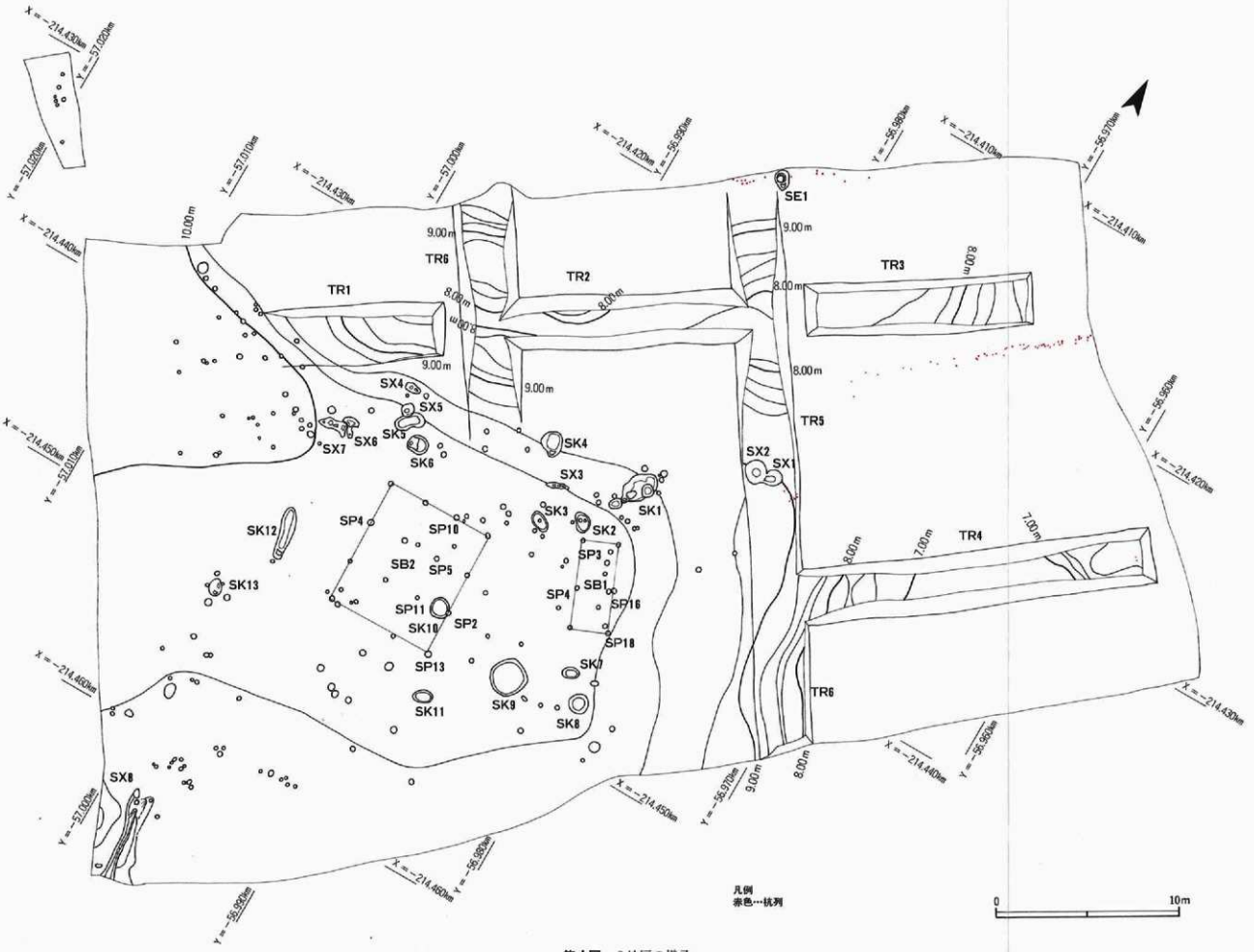
現地説明会



第 2 図　調査区設定図


Y＝－57.010m
X＝－214.470m
X＝－214.470m
9.00m
8.00m
A
A'
Y＝－57.020m
X＝－214.480m
B
X＝－214.480m
B'
Y＝－57.010m
Y＝－57.030m
X＝－214.490m
X＝－214.490m
Y＝－57.020m
C
C'
X＝－214.500m
Y＝－57.030m
凡例
赤色…杭列
0
10m

第3図　1地区の様子


TR1
TR2
TR3
TR4
TR5
TR6
SE1
SX1
SX2
SX3
SX4
SX5
SX6
SX7
SX8
SK1
SK2
SK3
SK4
SK5
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SK12
SK13
SP1
SP2
SP3
SP4
SP5
SP10
SP11
SP13
SP16
SP18
SB1
SB2
凡例
赤色…杭列
0
10m

第4図　2地区の様子

Ⅲ 遺 構

今回の発掘調査によって検出された遺構は、掘立柱建物２棟、土坑13基、井戸１基、溝１条、不明遺構８基、柱穴約200個である。これらの遺構は、遺跡の中央部北西から南東方向に張り出す高位部分（標高9.5ｍ～10ｍ）で見られるが、そのほとんどが２地区に分布する。遺構面は調査区北端付近及び北西側から東及び南東側へ張り出した状態で検出した。

各遺構の上面は、後世の水田開発により削平を受けており、当時の規模から見ればかなり浅いものになっている。特に１地区の北側は削平が著しいため、遺構の密度が希薄である。

１地区南東側及び２地区の北側～東側には、遺構面をとりまくように広い範囲で遺物包含層が認められ、同地点において河川跡を確認した。

以下に、主要な遺構を紹介する。

1　掘立柱建物

掘立柱建物は２地区において、２棟が復元できた(第４図)。建物は標高9.75ｍから10ｍに建てられている。２棟は隣接しており、棟方向は、若干の振れはあるが、ほぼ南北方向を向いている。柱穴の埋土、配置、出土遺物などから両者ともほぼ同時期のものと推定する。

ＳＢ１（第５図　図版９）

ＳＢ１は２地区の中央に建てられた２間×１間の建物。棟方向はN23°W。桁行長4.8ｍ、梁行長2.1ｍの規模をもち、６本の柱穴で構成されている。柱穴は直径22～38cm、深さ11～39cmである。ＳＰ14・46から土師器片、ＳＰ３から青磁皿が出土した（第16図100)。柱穴の埋土や遺物から、この建物は12世紀頃の建物と推定される。

ＳＢ２（第５図　図版９）

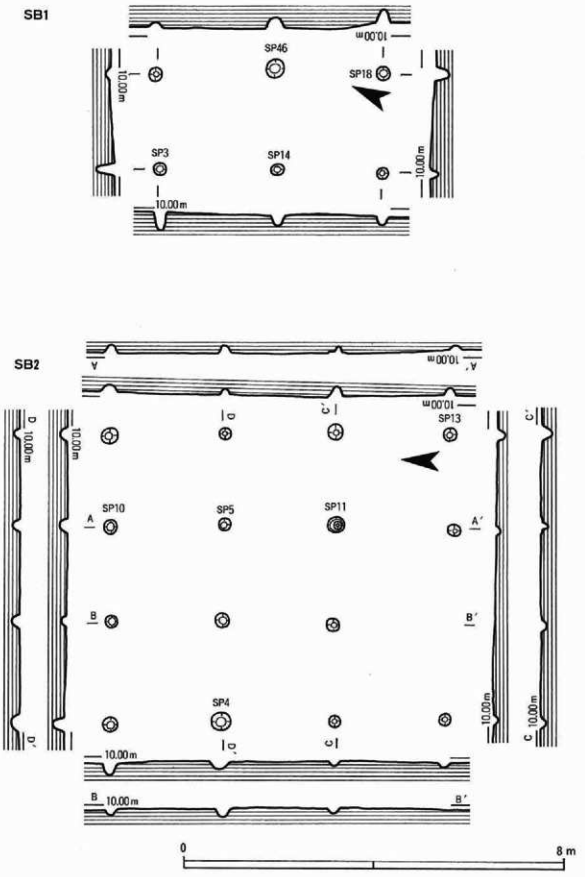
ＳＢ２は２地区の中央西寄りに位置し、ＳＢ１の西側に隣接して検出された。南側梁の柱穴１個が確認されなかったが、３間×３間の建物と考えられる。棟方向は、Ｎ１°W。桁行長7.2ｍ、梁行長6.1ｍの規模をもつ。柱穴は、直径20～38cm、深さ９～26cmである。ＳＰ４・５・13から土師器片、ＳＰ11から土師器片・スラグ、ＳＰ10から土師器皿１点・土師器椀片１点が出土した（第15図40・95)。柱穴の埋土や遺物より、この建物は12世紀から13世紀のものと推定される。

2　土坑

今回の調査では、２地区において13基の土坑が検出された。土坑は、遺構面高位部分の北側～東側にかけて集中して分布する。検出された土坑の大半は、後世の開発のため削平を受けて、底面がわずかに残っているだけである。そのため出土遺物が少なく、時期や用途について不明なものが多い。平面形は、円形３基・長円形４基・不整形６基である。ＳＫ９は弥生時代の土坑である。

ＳＫ１（第６図　図版７）

２地区中央部の緩傾斜面上に掘り込まれており、N30°Eに主軸をとる長軸230cm、短軸122cmの不整形の土坑である。深さは中央の最深部で24cm、北東側で９cmである。遺構の東側及び南西側に柱穴が掘り込まれている。埋土は灰黄褐色砂質土の単層であり、埋土中より５～40cmの扁平な礫とともに土師器皿（第15図46)・土師器椀片・土師器鍋（第17図116)・瓦質土器片が出土した。用途は不明である


SB1
SP46
SP18
SP3
SP14
10.00m
SB2
SP13
SP10
SP5
SP11
SP4
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
0
8 m

第5図 SB1・2実測図

が、12世紀代の遺構と推定される。

ＳＫ２（第６図　図版７）

ＳＫ１の南西側に隣接する。平面形は長円形である。N40°Wに主軸をとり長軸112cm、短軸74cm、深さ12cmである。底面中央付近に２個の小坑（２個とも土坑底面からの深さ８cm）が掘り込まれている。埋土は暗灰黄色土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

ＳＫ３（第６図　図版６）

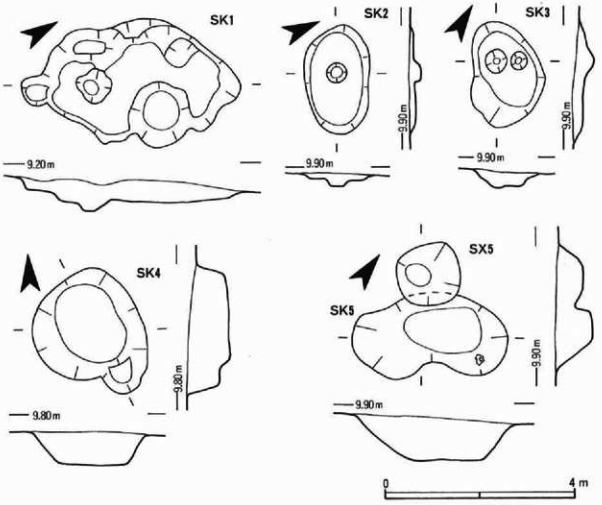
２地区中央やや南西寄りに位置し、ＳＫ２に隣接する。N70°Wをとる長軸115cm、短軸68cm、深さ５cmの長円形の土坑である。底面中央付近に小坑（土坑底面からの深さ６cm）が掘り込まれている。埋土は暗灰黄色土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

ＳＫ４（第６図　図版７）

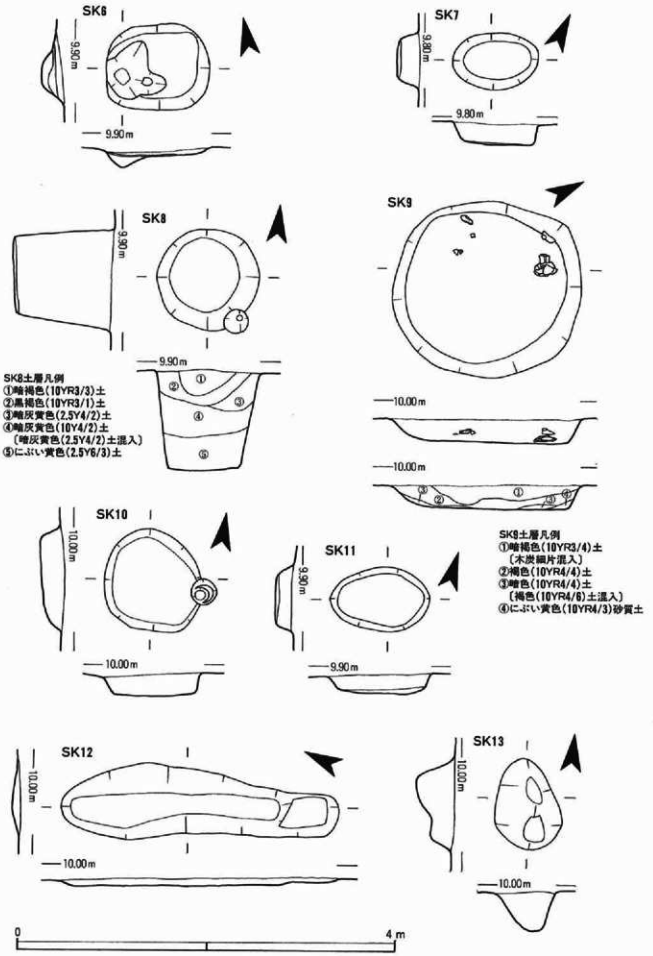
２地区中央やや西寄りに位置し、ＳＫ３の北西側に隣接する不整円形の土坑である。N20°Wに主軸をとり、長軸138cm、短軸118cm、深さ35cmである。埋土は灰黄褐色砂質土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

ＳＫ５（第６図　図版８）

２地区中央西寄りに位置し、N50°Eに主軸をとる長軸165cm、短軸74cm、深さ38cmの不整長円形の土



第６図　SK1・2・3・4・5　SX5実測図



第7図　SK6・7・8・9・10・11・12・13実測図

坑である。北西側でＳＸ５を切っている。埋土は黒褐色土の単層であり、埋土中より土師器片多数とともに、土師器椀底部片５点・土師器坏底部片１点・畿内産瓦器椀片１点・白磁碗１点（第16図101）が出土した。13世紀頃の遺構と推定する。

ＳＫ６（第７図　図版８）

ＳＫ５の南東側に隣接する土坑である。ほぼ東西に主軸をとる長軸108cm、短軸90cm、平面形は隅丸長方形である。深さは西側で17cm、東側で６cm。埋土は黒褐色粘質土の単層であり、埋土中より土師器片が出土した。12世紀頃の遺構と推定する。

ＳＫ７（第７図　図版７）

２地区中央南よりに位置し、N53°Eに主軸をとる、長軸90cm、短軸60cm、深さ23cmの長円形の土坑である。埋土はオリーブ黄色砂質土の単層であり、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

ＳＫ８（第７図　図版８）

ＳＫ７の南東側に隣接する土坑である。平面形はほぼ円形であり、長径110cm、短径106cm、深さ107cm。埋土は、暗褐色土、黒褐色土、暗灰黄色土、黒褐色土(暗灰黄色土混入)、にぶい黄色土の５層である。遺物は出土しなかった。断面形は井戸の様であるが、時期や用途については不明である。

ＳＫ９（第７図　図版８）

長径200cm、短径185cm、深さ26cmのほぼ円形の土坑であり、ＳＫ８と隣接する。埋土は暗褐色土、褐色土、褐色土、にぶい黄褐色砂質土の４層であり、埋土中より弥生土器壷１点（第12図６）を含む弥生土器片が出土した。本遺跡における唯一の弥生土器が出土した土坑である。遺構の用途については不明であるが、時期は弥生時代中期と推定される。遺構上位部分は削平を受け消滅しているものと考える。

ＳＫ10（第７図　図版８）

ＳＫ９の北西側約５ｍの地点に隣接する。遺構の東側を柱穴によって切られるが、長径108cm、短径103cm、深さ20cmのほぼ円形の土坑である。埋土は黄灰色土の単層であり、遺物は出土しなかった。用途及び時期は不明である。

ＳＫ11（第７図　図版６）

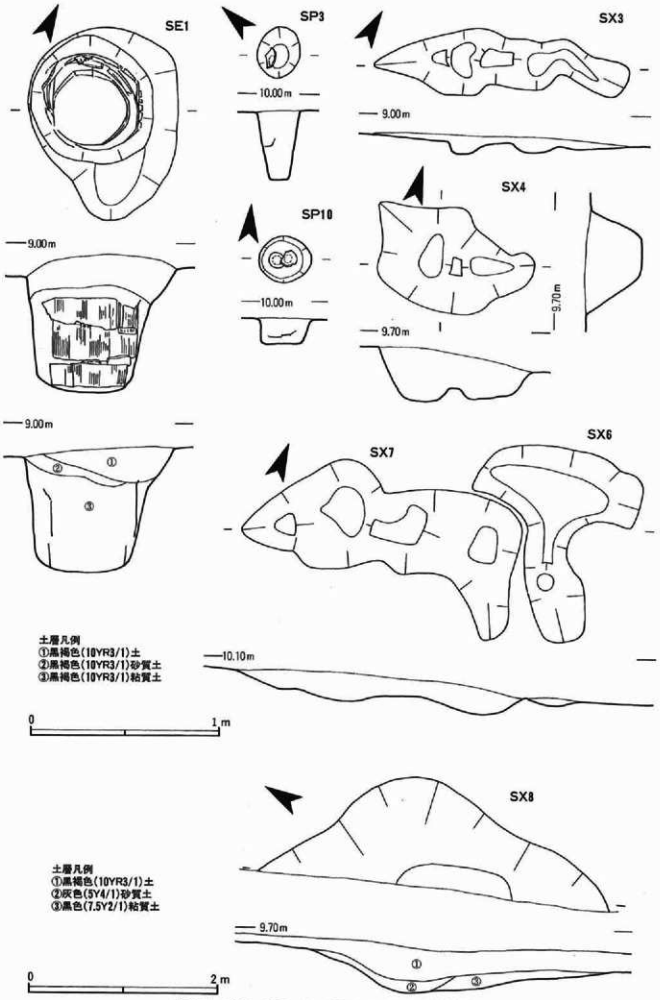
２地区南西側に位置し、N70°Eに主軸をとる長軸105cm、短軸70cm、深さ21cmの長円形の土坑である。埋土はオリーブ黄色土の単層であり、遺物は出土しなっかた。時期や用途は不明である。

ＳＫ12（第７図）

２地区南西側に位置する。平面形は溝状を呈しており、N15°Eに主軸をとる長軸294cm、短軸70cm、深さは遺構の南側で３cm、北側で５cmで後世の土地利用により著しく削平を受けている。遺構の南東側で２段に掘り込まれている。埋土は黄灰色土の単層であり、埋土中より土師器・瓦質土器の小片が出土した。用途は不明であるが、15～16世紀の遺構と考えられる。

ＳＫ13（第７図　図版７）

２地区南西側に位置し、ＳＫ12に隣接する。ほぼ南北に主軸をとる長軸95cm、短軸64cm。平面形は楕円形で、深さは北側で41cmである。南側で２段に掘り込まれている。埋土は灰黄褐色砂質土の単層であり、埋土中から土師器片多数及び瓦質土器鍋片２点が出土した。用途は不明であるが、15～16世



第8図 SE1 SP3・10 SX3・4・6・7・8実測図

紀の遺構と推定する。

3　井戸

本遺跡において確認された井戸は1基（SE1）のみである。

SE1

2地区の北端に位置にある。掘り方は南北にやや長い不整長円形で長径120cm、短径78cmである。深さ13cmのところに段があり、その下は径60cm程、深さ65cmのほぼ円筒状を呈している。底には径の異なる曲げ物が2段に置かれる。上部の曲げ物は直径46cm、高さ30cm、下部の曲げ物は直径40cm、高さ13cmである。上部曲げ物の残存状況は悪く、本来の大きさはわからない。遺物は瓦質土器こね鉢1点（第18図130）・土師器片などがある。この井戸は、15世紀頃のものとみられる。

4　柱穴

今回の調査では約200個の柱穴が発見されたが、そのほとんどが2地区に集中している。大半のものは、本来掘立柱建物を構成していたと考えられるが、建物として復元できたのは、わずかであった。ここでは、遺物の出土状況に特徴のあるものを紹介する。なお、柱穴として紹介するこれらの遺構は、地鎮祭等のような祭祀に伴う遺構である可能性もある。

SP3（第8図　図版9）

長径27cm、短径23cm、深さ36cmのほぼ円形の柱穴である。埋土は暗灰黄色土の単色であり、青磁皿1点（第16図100）が出土した。遺構の時期は12世紀代と推定する。この柱穴は、SB1を構成する。

SP10（第8図　図版9）

長径28cm、短径24cm、深さ13cmの楕円形の柱穴である。埋土は暗褐色土の単層であり、土師器皿1点（第15図40）・土師器椀底部片1点（第15図95）が出土した。遺構の時期は12～13世紀とみられる。この柱穴は、SB2を構成する。

5　不明遺構

2地区において8基の不明遺構を検出した。平面形は大半が不整形であり、傾斜地や包含層下無遺物層上面において検出され、規模、形態から流水による浸食作用により形成された可能性もあるが、遺物出土もあり、主なものについて紹介することとした。

SX3（第8図　図版10）

2地区の中央にあってSK4の南側に隣接する。平面形は溝状を呈しており、北東から南西にのびる。断面形は浅く、2カ所に凹部がある。遺物の出土はなく、時期は不明である。規模、形態から流水の浸食により形成された可能性もある。

SX4（第8図）

2地区の北西側に位置する。平面形は不整形、深さは西側で27cmある。埋土は暗褐色土の単層であるが、埋土中に若干の焼土が混入していた。土師器椀片他多数の土師器片が出土した。時期は13世紀頃と考えられる。

SX6・7（第8図　図版10）

SX6・7は2地区の北西側に位置し、SX4の南西4mのところに位置し、平面形は共に不整形を呈する。SX6からの遺物の出土はなかったが、SX7の埋土中から土師器椀片・坏片など多量の

土師器片が出土した。ＳＸ７は13世紀頃の遺構と推定する。

ＳＸ８（第８図　図版10）

２地区の南西端に位置し、遺構の東側のみ検出した。平面形は不整形とみられ、深さは中央西端で43cmである。埋土は黒褐色土、灰色砂質土、黒色粘質土の３層であり、土師器椀片・スラグなどが出土した。11～12世紀の遺構と考えられるが、埋土、平面形からみると、１地区南側に広がる河川跡とみられる低位地の一部である可能性もある。

６　河川跡

本遺跡の遺構面の西側（１地区の大半）及び東・北側（２地区の中央より北側・東側）の広い範囲においては、掘り込みを伴う遺構は検出されなかったが、同範囲において遺物包含層の堆積を確認した。１地区については遺物包含層の掘り込みを全面的に行い、２地区についてはトレンチ調査（ＴＲ１～７・第10図・図版２）により、遺物の採集及び旧地形の把握に努めた。以下に、１・２地区において検出された河川跡について、検出状況及び土層の概要を紹介する。

１地区検出状況（第３図　図版２）

標高約９ｍ～7.75ｍで北側に広がる遺構面から続く無遺物層があり、調査区北側及び北西側で高位、南東側で低位になり急傾斜で南に広がる湾状を呈している。同地区では、旧地形の確認は７ｍ×40ｍの範囲に限られたたが、旧地形及び土層の堆積状況から旧河川の一部及びその北岸の一部と推定した。最深部は標高7.8ｍで、岸からの深さは最大1.2ｍ程度であるが南東方向に急激に深くなる。

旧河川の北西岸周辺(標高8.5～９ｍ)に打ち込まれた杭多数を検出した。また、旧河川の北東側(標高８ｍ～8.5ｍ)では人頭大の礫多数とともに、杭列が密集した状態（図版５）で検出された。杭列は約７ｍ残存していた。杭は径４～６cm程度の樹皮つきの小木の先端を加工したもので、残りのよいもので長さは50～60cm程度である。これらはの用途は明確ではないが、河川北岸周辺の護岸施設の可能性も考えられる。

遺物は、表土から旧河川最下層にわたって出土する。上位層より中世土器を主体とする層、古代土器を主体とする層、弥生土器を主体とする層の順に堆積しており、各層の土器とも器面の摩耗が少なく破片も大きいことから、原位置をあまり移動していないものと考えられる。

１地区土層（第９図）

詳細な土層の堆積状況は、第９図の土層断面図に譲り、概略的な堆積状況について記述する。

調査区中央部の堆積状況は、次の通りである。上位層には暗褐色粘質土が５～20cm位堆積し、瓦質土器など、14～15世紀頃の遺物が出土する。中位層に黒褐色土または黒褐色弱粘質土が最大30cm程度堆積し、土師器皿・椀、瓦質土器羽釜など、12～13世紀頃の遺物及び多量の木製品、フイゴ羽口片、スラグ等が出土する。中位層の下位部分は帯水層であり、木製品の残存状況は良好である。調査区北西側の斜面状において須恵器高坏が出土した。高坏の時期は６世紀後半と推定する。滞水層である下位には灰褐色の砂が堆積し、弥生時代中期～後半の土器片が出土する。遺物の破片は大きく、器面の摩耗も少ない。

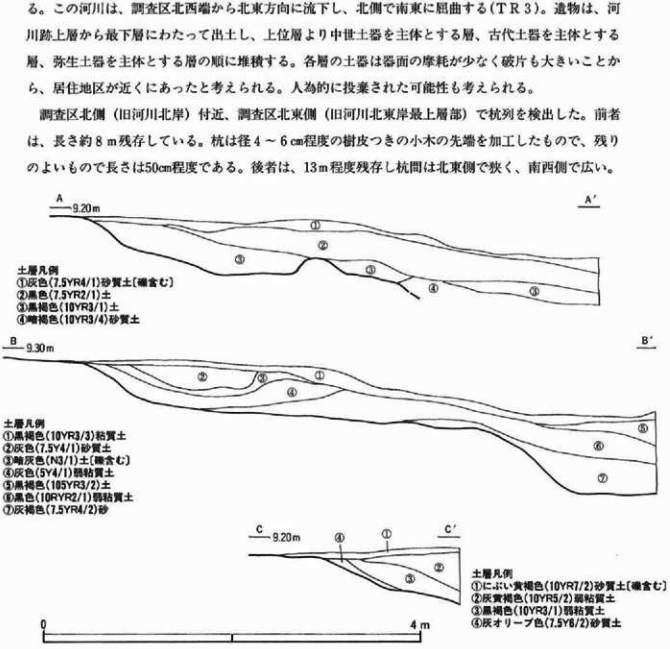
調査区東側（図版５）は東側集落に近い場所であり、上層に灰色砂質土があり、中世の瓦質土器片などが出土する。この下に黒色土層があり、北側に浅く、南側で最大22～35cm堆積する。この層から

は土師器椀・皿、瓦質土器羽釜、磁器など12～13世紀の土器、フイゴ羽口やスラグなど金属製品生産に関係する遺物が多数出土した。これらの遺物の破片は大きく摩耗も少ない。近い場所から投棄された可能性も考えられる。この層の下の黒褐色土層（滞水層部分）からは、多量の木製品が出土した。この下(滞水層)、暗褐色砂質土である。植物遺体を多量に含み、遺物は弥生土器高坏片及び壺片などがあり、器面の摩耗は割合少ない。

2 地区検出状況（第 4 図　図版 2・12）

トレンチ調査により、標高9.75m以下において遺構面から続く無遺物層上面まで検出した。その結果、河川の規模は、調査区北西側（ＴＲ７）で幅約11m（北西～南東方向）、最深部の標高は８m。調査区北側（ＴＲ５）で幅約12m北西～南東方向）、最深部の標高7.75m。調査区東側（ＴＲ４・６）では、幅約16m（北東～南西方向）、最深部の標高約７mである。岸からの深さは、最大で２mを超える。この河川は、調査区北西端から北東方向に流下し、北側で南東に屈曲する(ＴＲ３)。遺物は、河川跡上層から最下層にわたって出土し、上位層より中世土器を主体とする層、古代土器を主体とする層、弥生土器を主体とする層の順に堆積する。各層の土器は器面の摩耗が少なく破片も大きいことから、居住地区が近くにあったと考えられる。人為的に投棄された可能性も考えられる。

調査区北側（旧河川北岸）付近、調査区北東側（旧河川北東岸最上層部）で杭列を検出した。前者は、長さ約８m残存している。杭は径４～６cm程度の樹皮つきの小木の先端を加工したもので、残りのよいもので長さは50cm程度である。後者は、13m程度残存し杭間は北東側で狭く、南西側で広い。



第 9 図　1 地区土層断面図

杭は径４～５㎝程度で残りのよいものは長さは40㎝程度である。杭を打ち込み始めた面は、平安時代後半～鎌倉時代の遺物を含む層である。調査区中央付近（旧河川西岸）及び調査区南東側（旧河川東岸）においても杭が数本打ち込まれていた。杭列の用途は明確でないが、出土位置からみて道の土手の補強または土地境界を示す役割などが考えられる。

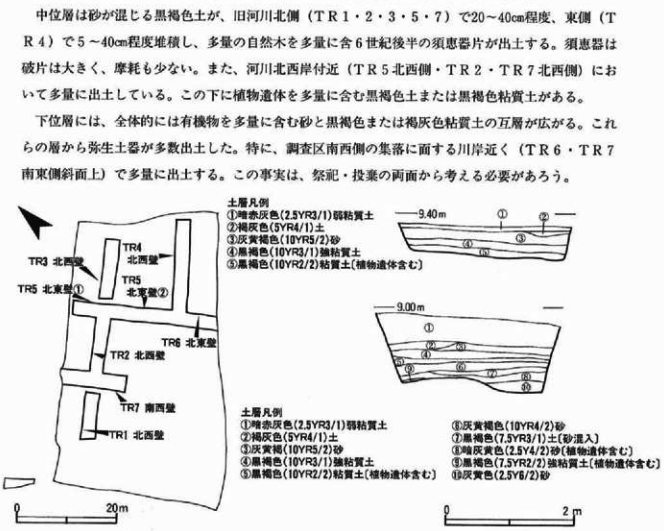
２地区土層（第10・11図）

旧河川内の土層の堆積状況は、全域にわたってほぼ同様である。上位層においても周辺の湧水層の存在により滞水層をなしており、植物遺体、木製品等の保存状況は極めて良好である。

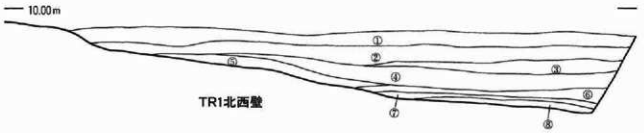
上層の灰黄褐色土・褐灰色土からは、土師器、瓦質土器など中世を中心とする遺物が出土する。その下に、黒褐色土または黒褐色弱粘質土があり、旧河川北西側で10～35㎝、東側で20～75㎝程度堆積しており、遺物は、土師器片、瓦質土器片、磁器片など12～13世紀頃の土器を中心とする。この時期の土器類は、調査区北西～北側（ＴＲ１・２・５・７）で多量に出土し、破片は大きいものが多く、摩耗も少ない。北東側及び東側（ＴＲ３・４）では小片が目立つ。この下に黒褐色弱粘質土（砂を含む）があり、自然木、松や梅の種や下駄、槌の子などの木製品や土師器片が出土する。

中位層は砂が混じる黒褐色土が、旧河川北側（ＴＲ１・２・３・５・７）で20～40㎝程度、東側（ＴＲ４）で５～40㎝程度堆積し、多量の自然木を多量に含６世紀後半の須恵器片が出土する。須恵器は破片は大きく、摩耗も少ない。また、河川北西岸付近（ＴＲ５北西側・ＴＲ２・ＴＲ７北西側）において多量に出土している。この下に植物遺体を多量に含む黒褐色土または黒褐色粘質土がある。

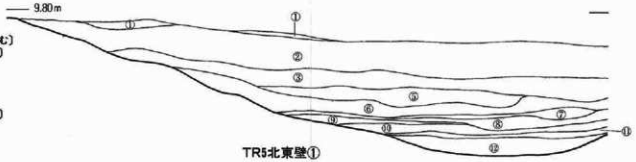
下位層には、全体的には有機物を多量に含む砂と黒褐色または褐灰色粘質土の互層が広がる。これらの層から弥生土器が多数出土した。特に、調査区南西側の集落に面する川岸近く（ＴＲ６・ＴＲ７南東側斜面上）で多量に出土する。この事実は、祭祀・投棄の両面から考える必要があろう。

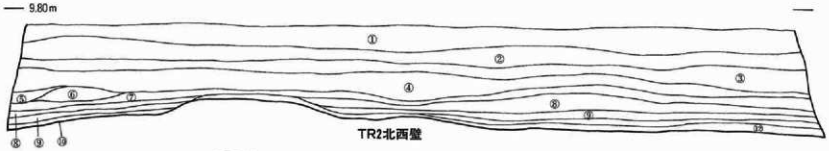


第10図　２地区トレンチ土層断面図(1)

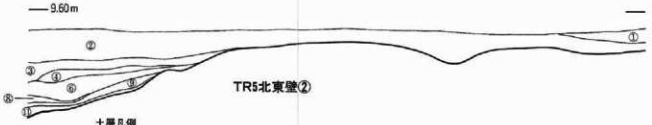


土層凡例
①灰黄褐色(10YR4/2)土
②黒褐色(10YR2/2)弱粘質土(樹木含む)
③黒褐色(10YR2/2)土(砂・樹木含む)
④黒褐色(2.5YR3/1)(炭化木含む)
⑤褐灰色(10YR2/3)土
⑥黒褐色(10Y2/3)砂
⑦黒褐色(10YR2/2)粘質土
⑧暗褐色(10YR3/3)粘土質(樹木含む)

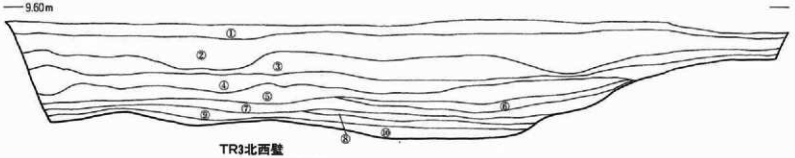




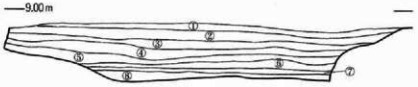
土層凡例
①灰黄褐色(10YR4/2)土
②黒褐色(10YR2/2)弱粘質土
③黒褐色(10YR2/2)弱粘質土(砂・樹木含む)
④黒褐色(2.5YR3/1)(炭化木含む)
⑤極暗褐色(2.5YR2/2)粘土質
⑥灰オリーブ色(5Y5/2)粘質土(砂含む)
⑦暗褐灰色(2.5YR3/1)粘質土(植物遺体含む)
⑧にぶい黄橙色(10YR7/3)砂
⑨灰オリーブ色(5Y5/2)砂(礫含む)
⑩灰オリーブ色(5Y6/2)砂
⑪黄灰色(2.5Y4/1)弱粘質土
⑫灰白色(5Y7/2)砂



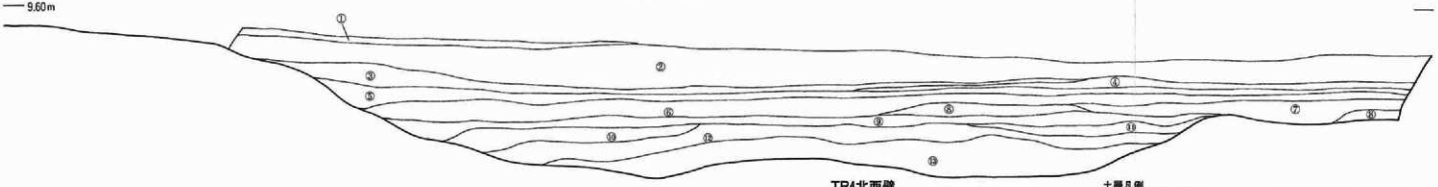
土層凡例
①褐白色(7.5YR4/1)(褐色(7.5YR4/6)土混入)
②黒褐色(10YR3/1)土
③黒褐色(10YR2/2)土(植物遺体大量に含む)
④灰褐色(7.5YR6/2)砂質土(植物遺体含む)
⑤黒褐色(7.5YR3/1)粘土質
⑥黒褐色(7.5YR3/2)粘土質
⑦黒褐色(10YR2/2)砂質土
⑧にぶい褐色(7.5YR5/3)砂質土
⑨黒褐色(7.5YR2/2)土(砂大量に含む)
⑩黄褐色(10YR5/6)砂質土
⑪黒褐色(10YR3/2)粘土質
⑫明黄褐色(10YR6/6)砂・黒褐色(10YR3/2)(植物遺体大量に含む)の互層



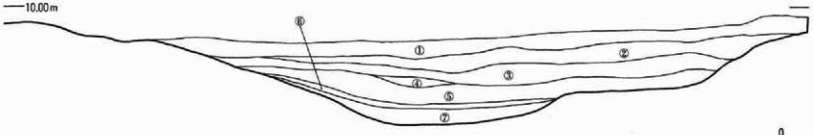
土層凡例
①灰黄褐色(10YR4/2)土
②褐灰色(7.5YR4/1)土
③黒褐色(7.5YR3/1)土
④黒褐色(10YR3/1)土(砂む)
⑤暗赤褐色(5YR3/2)粘質土(樹木含む)
⑥明褐灰色(7.5YR7/2)砂
⑦黒褐色(5YR3/1)土(砂・植物遺体含む)
⑧明褐灰色(7.5YR7/2)砂
⑨褐灰色(7.5YR4/1)粘質土
⑩灰褐色(5YR6/2)砂



土層凡例
①黒褐色(10YR3/1)土
②黒褐色(7.5YR3/1)土
(灰褐色(7.5YR4/2)砂質土混入)
③黒褐色(7.5YR3/2)土
④黒褐色(7.5YR2/2)土
⑤灰褐色(7.5YR4/2)砂質土
⑥褐灰色(10YR4/1)粘土質(砂含む)
⑦灰褐色(10YR4/2)砂質土
⑧褐灰色(10YR4/1)粘土質



土層凡例
①褐灰色(10YR4/1)土
②黒褐色(10YR3/1)土
③黒褐色(10YR3/1)
(灰黄褐色(10YR4/2)砂質土混入)
④黒褐色(10YR3/2)砂質土
⑤黒褐色(10YR2/2)土
⑥黒褐色(10YR2/2)土
(灰黄褐色(10YR5/2)砂質土混入)
⑦灰黄褐色(10YR5/2)砂
⑧黒褐色(10YR2/2)粘土質
⑨暗緑灰色(10G4/1)粘土質
⑩灰黄褐色(10YR4/2)砂
⑪褐灰色(10YR4/1)粘土質(砂含む)
⑫黒色(10YR1.7/1)土
(灰黄褐色(10YR4/2)砂混入・植物遺体含む)
⑬灰黄褐色(10YR4/2)砂(礫含む)
⑭褐灰色(10YR4/1)砂



土層凡例
①灰黄褐色(10YR4/2)土
②黒褐色(10YR2/2)粘土質
③黒褐色(10YR2/2)弱粘土質(砂含む)
④褐灰色(5YR4/1)砂質土(樹木含む)
⑤黒褐色(2.5YR3/1)弱粘土質(炭水木含む)
⑥灰褐色(7.5YR4/2)砂質土
⑦灰黄褐色(10YR6/2)砂(植物遺体含む)

0　10m

第11図　2地区トレンチ土層断面図(2)

Ⅳ 遺 物

調査の結果、弥生土器・須恵器・土師器・瓦質土器・土製品・木製品・鉄製品・石製品などの遺物が出土した。時期的には、古代のものが多いが、弥生土器や須恵器など遺存度の高いものも多い。遺構に伴う遺物も多数出土したが、土器片や摩滅の激しい細片が多く図面に起こしたものは少ない。したがって、掲載しているものの大半は遺物包含層から出土したものである。以下、主な遺物を異種ごとに取り上げて簡単に説明する。なお、個々の遺物の観察表は章末にまとめて掲げる。

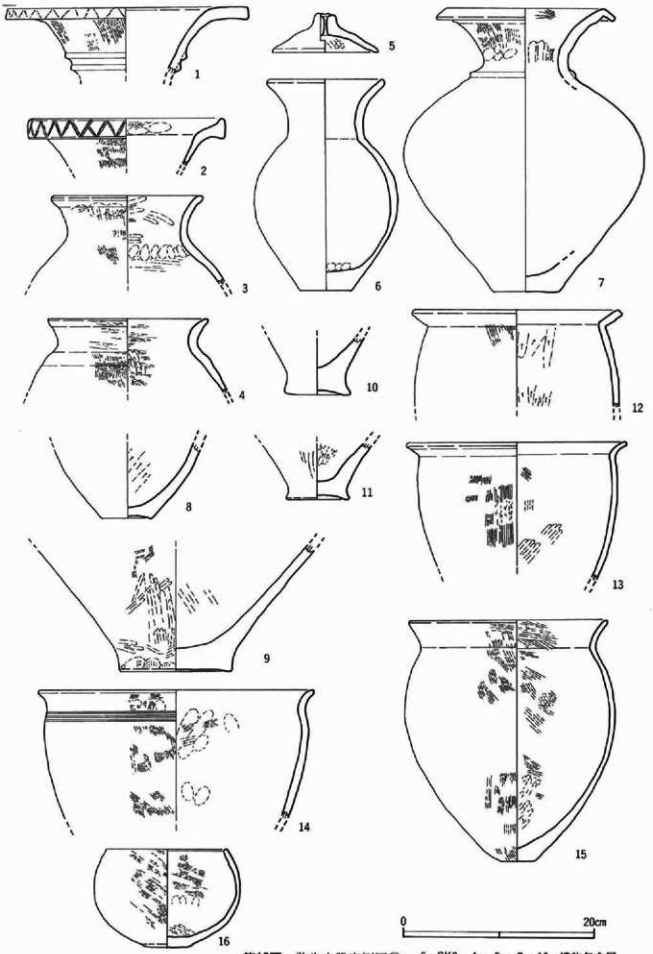
1 土器・磁器類（第12～18図、1～132）

1～18は弥生土器で、中期の土器が最も多く、1・2両地区から出土している。1～7はすべて壺（5は壺蓋）である。1・2は口縁端部外面に山形文様が施されている。1は頸部に2条の貼り付け突帯が施されている。2は口縁端部が上下にわずかに肥厚されている。3・4は胴部が強く張った短頸の壺である。口縁端部は丸く終わる。5は壺用の蓋と思われる。天井部四方向に乳頭状の突起をもち、穿孔がある。6は口頸がゆるやかに外反して開いている。7は口縁部が朝顔状に大きく開き、口縁端部は下垂する。頸部に1条の貼り付け突帯が施されている。8・9は壺の底部で、10・11は甕の底部である。底部はいずれも上げ底である。10～15はすべて甕である。12は口縁部が「く」の字状に屈曲する。頸部内面にはっきりとした稜をもつ。13は口縁部が屈曲気味に外反する。胴部の張り出しは小さい。頸部内面にはっきりとした稜をもつ。14の口縁部は短く外反する。外面にヘラ状工具による3条の沈線をもつ。15の口縁部はゆるやかに外反する。胴部の張り出しはやや大きい。16・17はいずれも鉢である。16の口縁は内傾し、胴部は大きく張り出す。17の口縁部は短く屈曲する。口縁とその下の突帯はいずれも貼り付けである。突帯は連鎖突帯で、貝殻の背か布の上からの指頭によって文様が施されている。18は高坏の脚部で「ハ」の字状に開く。

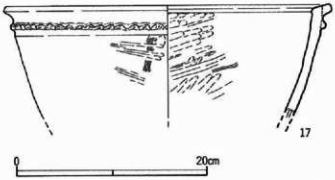
19～39は須恵器で、20以外はすべて2地区遺物包含層より出土した。多少の時期のずれはあるものの、概ね6世紀後半の所産と判断してよいであろう。19・20は高坏の脚部である。19は三方に2段の透かし孔がある。21～24は坏蓋である。21は天井部に扁平のつまみがつく。25～36は坏身である。37・38は短頸の甕である。37口縁端部は折り返して玉縁状をなす。38は口縁端部に面をもち、下端をわずかにつまみ出す。39は甑である。胴部中位外面に貝殻による刺突文を施す。

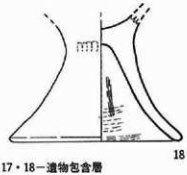
40～99は土師器で、遺物の中でもっとも多く出土した。40～65はすべて小皿で、12世紀から13世紀にかけてのものである。66～81、94～99はすべて椀で、高台や口縁の形状や胎土によって11世紀から13世紀まで時期幅がある。99の内面はナデ調整後、磨き調整（暗文）を施している。82～85、93は坏である。すべて内外面回転ナデ調整で、底部は回転糸切りである。86～88は脚付き皿で、脚は貼り付けである。89～92は台付き皿である。89・90は底部に穿孔がある。

100～114は磁器で、内外面釉薬を施す。100・110・111が皿でそれ以外はすべて椀である。100・102～106・112が青磁でそれ以外は白磁である。100・101は共に内面に劃華文をもつ。102は外面に稚拙な蓮弁文、見込みに「玉」字状の陽出文がみられる。103は外面に鎬蓮弁文をもつ。104・106は内面に花文をもつ。105は内面底部に蛇の目釉剝ぎを施す。107～109は玉縁の白磁椀である。110の外面底面に墨書あり。



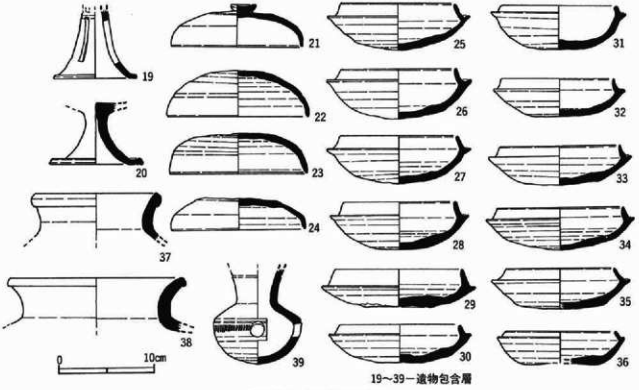
第12図　弥生土器実測図①　6－SK9，1～5・7～16－遺物包含層





17・18－遺物包含層

第13図　弥生土器実測図②



19～39－遺物包含層

第14図　須恵器実測図

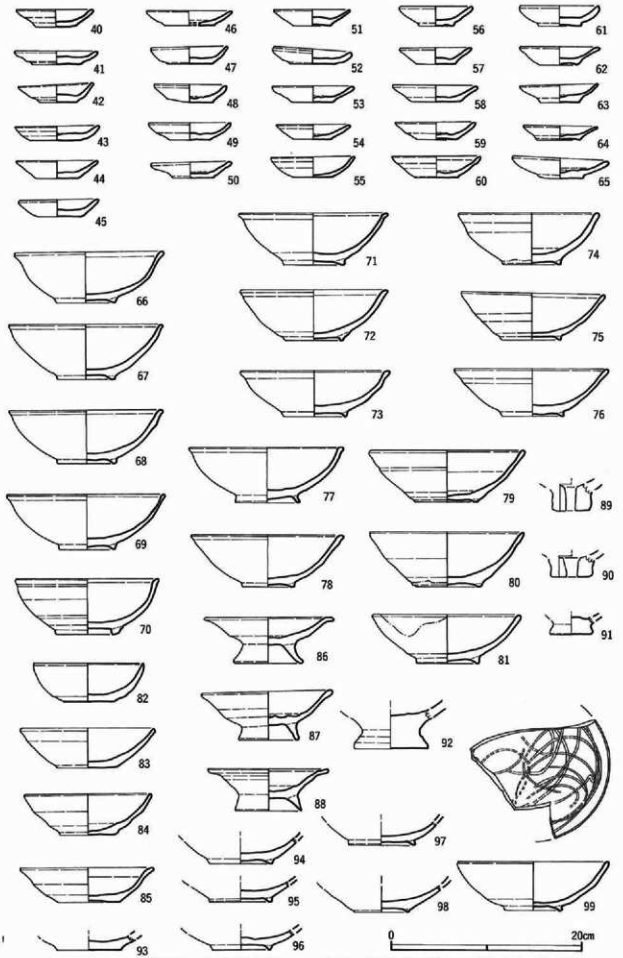
115～132は瓦質土器で、内外面に調整の痕が顕著に残るものがほとんどである。115～117は口縁部が外反する鍋である。118～124は羽釜で鍔はすべて貼り付けである。124は足付きである。126･127は擂り鉢で、127は内面に６本を単位とする卸し目がみられる。128～131は捏ね鉢で、128～130は注口をもつ。132は甕で口縁部は大きく外反する。胴部は強く張り出す。

2　土製品（第19図、133～142）

133～140は鞴の羽口で、いずれも先端部は溶融・発泡し、スラグが付着する。時期は未定であるが、中世の羽口と比べると小振りである。また、すべて１地区遺物包含層東側の中層から出土しており、同じ層から土師器椀が多数出土していたことを考慮すると12～13世紀頃と推定することができる。141は土師質の土玉である。孔は貫通している。142は指頭圧痕を残す土師質の管状土錘である。

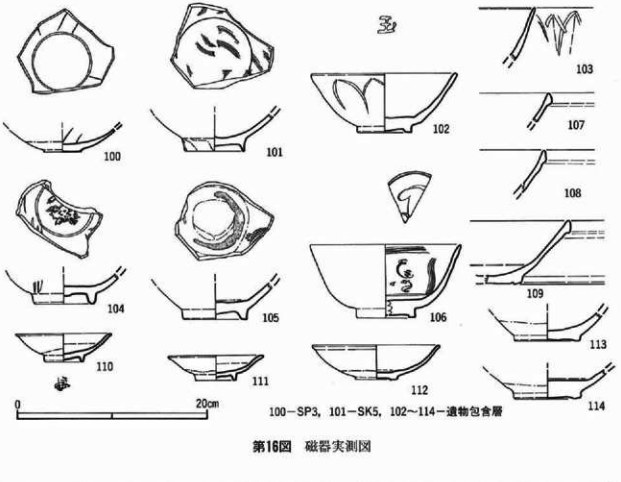
3　金属製品（第20図、143～147）

143は永楽通寶である。正規銭に比べやや小型で軽量なため、模鋳銭の可能性もある。模鋳銭であれ

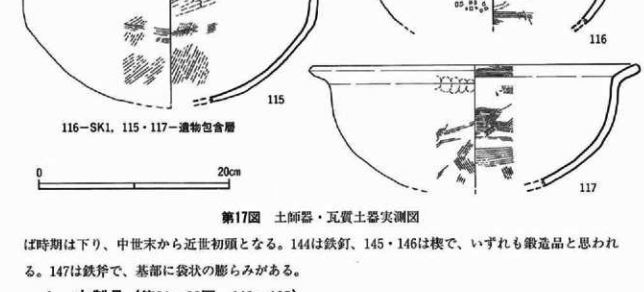


第15図　土師器実測図

40・95－SP10，46－SK1，93・97－SD1，94－SP7
96－SK6，98－SX8，41～45・47～92・99－遺物包含層



第16図　磁器実測図

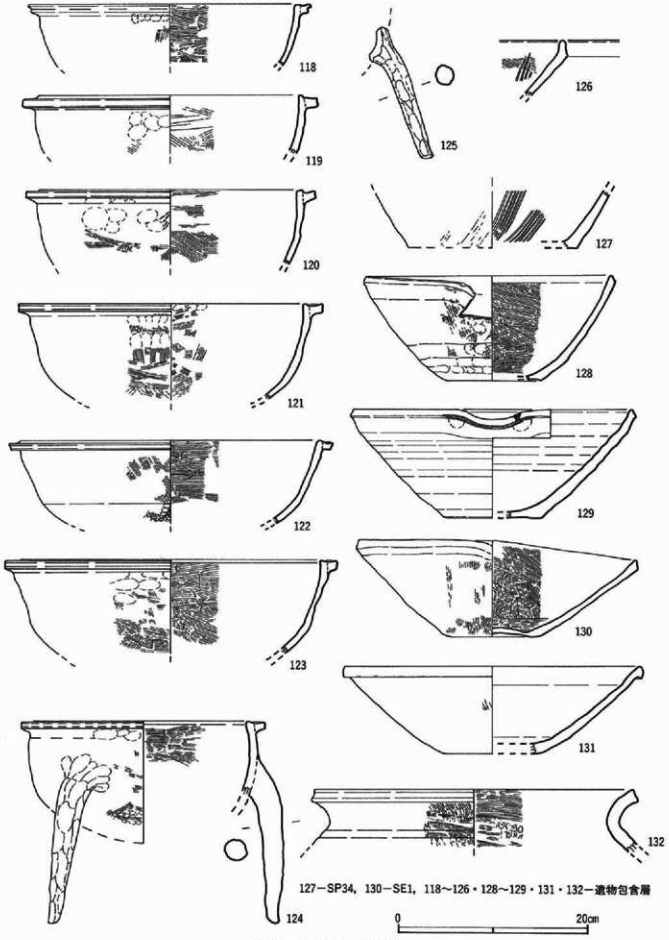


第17図　土師器・瓦質土器実測図

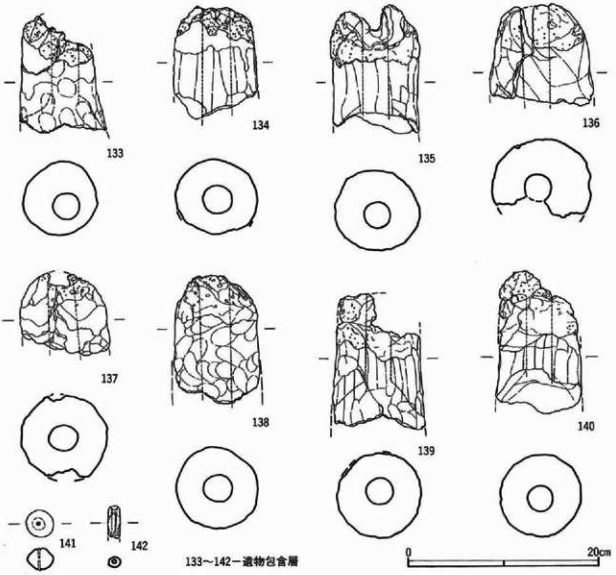
ば時期は下り、中世末から近世初頭となる。144は鉄釘、145・146は楔で、いずれも鍛造品と思われる。147は鉄斧で、基部に袋状の膨らみがある。

4　木製品（第21・22図、148～167）

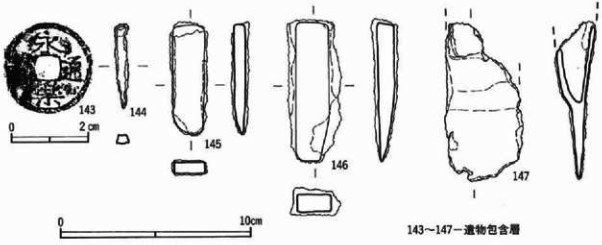
木製品はすべて2地区遺物包含層の上層と中層から出土している。148～151は木錘（櫓の子）で丸木の両端を切断した後、中央部に向かって削りだし、くびれている。159～167は下駄で、すべて一木連歯である。穿孔が残っているものが多い。160は使用による摩耗で親指の使用痕が確認できるため、



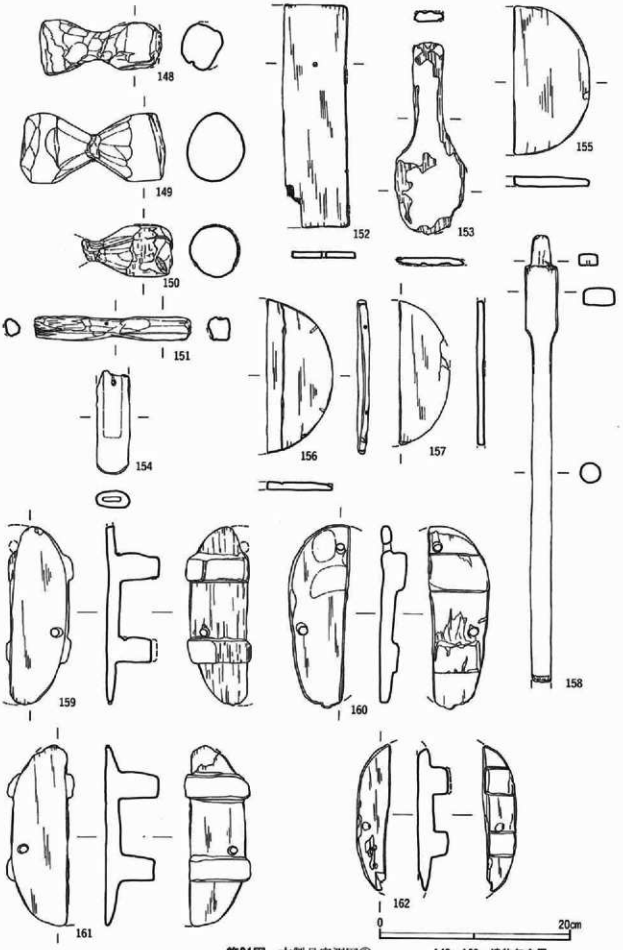
第18図　瓦質土器実測図



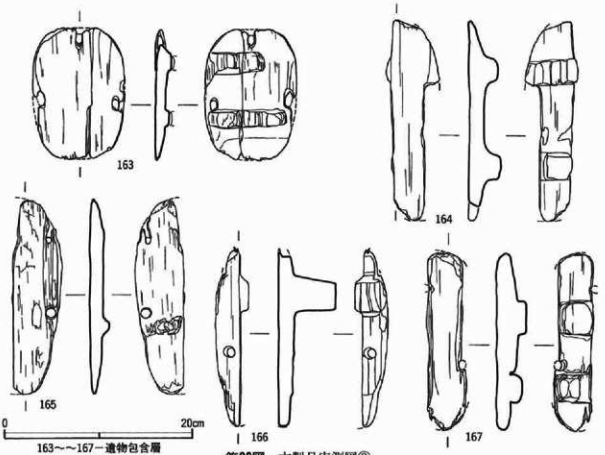
第19図　土製品実測図



第20図　鉄製品実測図

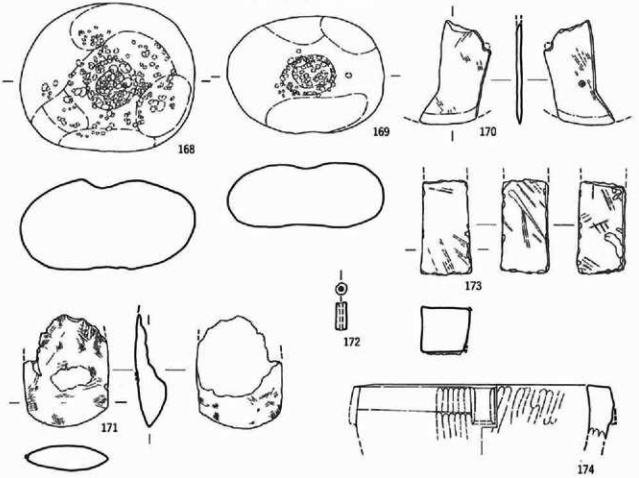


第21図　木製品実測図①　　148～162－遺物包含層



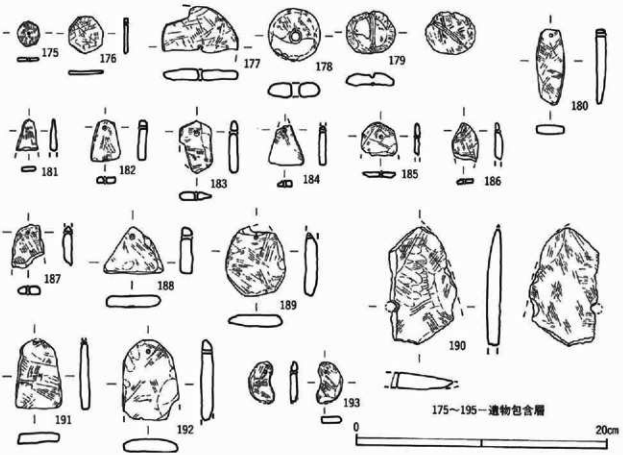
163～～167－遺物包含層

第22図　木製品実測図②

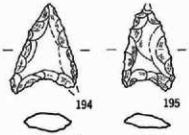


168～174－遺物包含層

第23図　石製品実測図①



第24図　石製品実測図②



右足用の下駄であると判断できる。

5　石製品（第23・24図、168～195）

168・169は閃緑岩の円礫を利用したたたき石で、側面三方に敲打痕がみられ、大きな窪みが上・下面に確認できる。170は大型石包丁で、石材は泥岩で穿孔1ヶ所（破損）と未完の穿孔1ヶ所をもつ。171は磨製の給刃石斧で、石材は凝灰岩である。172は完形の碧玉製の管玉で、器面は丁寧に研磨されている。174～193はすべて滑石製品で、大半が2地区の遺物包含層の中層から出土したものである。174は口縁部の四方に方形の突起の付いた石鍋である。178は紡錘車である。中央部には両側からの穿孔を施す。179は石錘と思われ、表裏に方向の違う削った溝がある。断面は台形を呈し、表面には製作時の条痕が認められる。190は大型の滑石製模造品であるが、欠損部が多く全体像は復元できない。両側からの穿孔を確認するが破損している。175～176、180～193はすべて滑石製の模造品である。全体的に丁寧に整形し厚さも均一で両面とも縦横の擦痕がみられるものが多い。形態の種類は、有孔円盤・剣形・盾形・鏃形・勾玉形に分けられるが、明確に何を模造したものか示せないものもある。194・195は石鏃である。いずれも凹基無茎式で、周縁の粗い剥離の後、刃部は細かい調整を施している。石材は珪質片岩である。

第1表　土器・土製品観察表(1)

種別・国配番号	器種器形	法量 cm ( )は復元値	特徴	胎土・焼成	色調(内面)	色調(外面)	時期	出土地点
1	弥生土器 壺	口径 25.7	外面口縁部に貝殻による山形文有り。上部に縦方向のハケ調整の痕が残る。外面頸部に2条の縦方向付け突帯が廻っている。内面は単純ヘラ削と調整不明。	粗 砂粒を多く含む 軟質	浅黄橙	浅黄橙	弥生中期	1地区 包含層 下層
2	弥生土器 壺	口径 (20.6)	外面口縁部に八ケ状工具による山形押型文がある。外面はハケ調整後ナデで一部消している。内面口縁部はナデ。頸すぼ部が残る。内面口縁部より下は粗雑調整のため調整不明。	粗 砂粒を多く含む 軟質	にぶい黄橙	にぶい黄橙	弥生中期	2地区 包含層 下層
3	弥生土器 壺	口径 (16.1)	外面は一部ハケ調整後、ナデで消している。上部に粘土紐が残る。内面はハケ調整後、撫で調整。内面頸部には指ナデ痕有り。口縁部分は撫で調整した後、ナデで消している。	粗 砂粒を多量に含む軟質	灰褐	灰褐	弥生中期	2地区 包含層 下層
4	弥生土器 壺	口径 (16.8)	外面口縁部にハケ調整後、ナデで消している。頸部下には、粗い縦方向のハケ目が残る。内面頸部にはヘラ削り。内面はハケ調整後、ナデで消している。	粗 砂粒を多量に含む軟質	灰黄褐	黒褐	弥生後期	2地区 包含層 下層
5	弥生土器 壺蓋	底径 (11.2) 器高 4.1	外面は単純ヘラ削して調整不明である。蓋中央部に穴があいており、紐を通していたと考えられる。天井部周方に孔状状の突起がある。内面ヒダの痕がかすかに残る。	粗 砂粒を多く含む 軟質	にぶい黄橙	にぶい黄橙	弥生	1地区 包含層 下層
6	弥生土器 鉢	口径 11.8 底径 5.4 器高 22.2	外面口縁部に刻線状に六条と深さ、口縁部直下は平行な刻線状の凹部有り。内面は刷毛目調整不明。内面中位ハケ調整の痕跡有り。内面底部は板目有り。	粗 砂粒多く含む 軟質	にぶい橙	にぶい橙	弥生中期	2地区 SK9
7	弥生土器 壺	口径 16.5 底径 7.0 器高 29.8	外面の頸部には短い刻目付け突帯が廻っている。上部にハケ調整後、ナデで消している。胴部の所面は測定不可能。内面底部に指押痕が残る。底部にはケズリを底部める。	粗 砂粒を多量に含む軟質	褐灰	褐灰	弥生中期	1地区 包含層 下層
8	弥生土器 壺	底径 5.0	外面胴部縦部につき調整不明。内面ヘラ削りの痕跡有り。胴部の内残存。上げ底の底部。	粗 砂粒多く含む 軟質	にぶい褐	にぶい褐	弥生中期	1地区 包含層 下層
9	弥生土器 壺	底径 (11.9)	外面には上方向へのヘラ磨きの痕が多量に残る。底部には指痕圧痕が残る。内面はヘラ磨き。内面底面は、指ナデした指痕が側面している。やや上げ底の底面。	粗 砂粒を多量に含む軟質	にぶい黄橙	にぶい黄橙	弥生前期末 中期	2地区 包含層 下層
10	弥生土器 鉢	底径 6.8	外面ハケ調整。内面粗付着。底部の残存。上げ底の底部。	粗 砂粒多く含む やや軟質	灰黄褐	橙	弥生中期	2地区 包含層 下層
11	弥生土器 鉢	底径 6.5	外面ヘラ磨き。内面ヘラ削り。底部の残存。上げ底の底部。	粗 砂粒多く含む やや軟質	黒	灰褐	弥生中期	2地区 包含層 下層
12	弥生土器 壺	口径 (21.2)	口縁部は「く」の字状に屈曲する。胴部内面に接面をなす。外面ハケ調整。外面口縁部ナデ調整。内面ヘラ削り。下半部欠失。	粗 砂粒多く含む やや軟質	褐	褐	弥生中期～ 中期後半	2地区 包含層 下層
13	弥生土器 壺	口径 23.2	口縁部は屈曲気味に外反する。外面に縦方向のハケ調整の跡が残る。口縁部はナデ調整。胴部の張り出しはかすかい。内面中央部付近にヘラ削りの痕。上・中央部にハケ目痕がかすかに残る。	粗 砂粒を多く含む 軟質	明褐灰	明褐灰	弥生中期	1地区 包含層 下層
14	弥生土器 壺	口径 (29.1)	口縁部は短く外反する。外面はハケ調整されている。頸部外面にへラ状工具による3条の沈線有り。口縁部はナデ。内面はハケ調整後ナデで消している。	粗 砂粒を多量に含む軟質	にぶい褐	にぶい褐	弥生前期～ 中期初	1地区 包含層 下層
15	弥生土器 壺	口径 20.9 底径 3.5 器高 25.2	口縁はゆるやかに外反する。外面にハケ調整の痕が多量に残る。胴部はハケ調整。内面ヘラ削。内面は、タタキ調整の痕。ハケで調整を施している。	粗 砂粒を多く含む軟質	灰褐	灰褐	弥生後期	2地区 包含層 下層
16	弥生土器 鉢	口径 (12.6) 底径 (5.6) 器高 10.3	口縁は内傾し、胴部は大きく張り出す。外面は、ハケ調整後ナデで一部を消している。内面はハケ調整後、撫っている。	粗 砂粒を多量に含む軟質	淡黄	淡黄	弥生中期	2地区 包含層 下層
17	弥生土器 鉢	口径 (31.2)	外面に沿直部分と口縁とその下の突帯はいずれも短平行する。突帯には指痕突帯で、貝殻の背を転がした痕跡によって鋸歯がつけられている。外面、内面ともにハケ調整後、撫き調整を施している。	粗 砂粒を多量に含む軟質	淡黄	淡黄	弥生中期	2地区 包含層 下層
18	弥生土器 高坏	底径 18.0	脚の部分のみ残り、「八」の字状に開く。外面は摩滅が激しく、調整は不明である。内面は縦方向のハケ調整後横方向にハケ調整が施されている。	粗 砂粒を多量に含む軟質	明褐灰	明褐灰	弥生	2地区 包含層 下層
19	須恵器 高坏	底径 (8.7) 器高 [8.7]	坏身部分欠失。脚部のみ残存。内外面回転ナデ。自然釉有り。3方向に透かし孔有り。(2段) 中位に一条の沈線有り。	密 細粒を少量含む硬質	灰	オリーブ黒	6C後半	2地区 包含層 中層
20	須恵器 高坏	底径 (9.8)	内・外面オ字調整。坏の部分は欠失して脚部のみ残る。	密 砂粒少量含む硬質	灰白	灰	6C後半	1地区 包含層 中層
21	須恵器 坏蓋	口径 13.8 器高 4.5 つまみ径2.7	輪積み回転。天井部に扁平鈕状のつまみがつく。つまみは縁与付け。外面つまみ以外はナデ調整。外面上部から胴部にかけ回転ヘラ削り。天井部外面回転ナデ。内面天井部胴部に板目有り。内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む硬質	灰	灰	6C後半	1地区 包含層 中層
22	須恵器 坏蓋	口径 (14.6) 器高 4.8	輪積み回転。内面天井部砂止ナデ。それ以外の内面回転ナデ。外面口縁部付近回転ナデ。それ以外の外面回転ヘラ削り。	密 細粒を少量含む硬質	灰	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
23	須恵器 坏蓋	口径 14.5 器高 4.3	輪積み回転。外面天井部回転ヘラ削り。その他の外面および内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む硬質	灰	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
24	須恵器 坏蓋	口径 14.1 器高 3.3	輪積み回転。外面天井部回転ヘラ削り。その他の外面回転ナデ。内面天井部砂止ナデ。その他の内面回転ナデ。	密 細砂少量含む硬質	灰	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
25	須恵器 坏身	口径 12.0 受部径 16.0 器高 5.0	輪積み回転。外面底部回転ヘラ削り。その他の外面回転ナデ。内面底部砂止ナデ。当て具痕有り。その他の内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む硬質	灰黄褐	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
26	須恵器 坏身	口径 12.1 受部径 15.3 器高 5.2	輪積み回転。外面底部回転ヘラ削り。それ以外の外面回転ナデ。内面底部砂止ナデ。その他の内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む硬質	灰黄	灰黄	6C後半	2地区 包含層 中層
27	須恵器 坏身	口径 12.3 受部径 15.3 器高 5.1	輪積み回転。外面底部から受部付近まで回転ヘラ削り。それ以外の外面回転ナデ。内面底部砂止ナデ。当て具痕有り。	密 砂粒を少量含む硬質	灰	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
28	須恵器 坏身	口径 (11.8) 受部径 (15.5) 器高 4.5	輪積み回転。外面底部砂止ナデ。当て具痕有り。外面底部回転ヘラ削り。それ以外の外面。内面は回転ナデ。	密 砂粒多く含む硬質	灰	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
29	須恵器 坏身	口径 (13.3) 受部径 (16.3) 器高 5.0	輪積み回転。外面底部回転ヘラ削り。それ以外の外面回転ナデ。内面底部砂止ナデ。および当て具痕有り。それ以外の内面回転ナデ。	密 砂粒少量含む硬質	灰	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
30	須恵器 坏身	口径 (12.8) 受部径 (15.1) 器高 3.9	内面底部砂止ナデ。および内面底面。その他の内面回転ナデ。外面底部から受部まで回転ヘラ削り。その他の外面回転ナデ。	密 砂粒多く含む	灰 赤味 (黄土)	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
31	須恵器 坏身	口径 11.9 受部径 14.0 器高 4.0	輪積み回転。外面底部から受部付近まで回転ヘラ削り。それ以外の外面および内面回転ナデ。	密 細粒を少量含む硬質	暗灰黄	灰白	6C後半	2地区 包含層 中層
32	須恵器 坏身	口径 11.7 受部径 13.7 器高 4.0	輪積み回転。外面底部から胴部まで回転ヘラ削り。それ以外の外面回転ナデ。内面底部砂止ナデ。指痕に底部。その他の内面回転ナデ。	密 砂粒を少量含む硬質	灰	灰	6C後半	2地区 包含層 中層
33	須恵器 坏身	口径 12.5 受部径 15.0 器高 4.1	輪積み回転。外面底部回転ヘラ削り。その他の外面回転ナデ。内面底部砂止ナデ。当て具痕有り。その他の内面回転ナデ。	密 砂粒を少量含む硬質	灰	灰	6C後半	2地区 包含層 中層

第２表　土器・土製品観察表(2)

34	須恵器 坏身	口径 (13.1) 受部径(15.5) 器高 4.6	外面底部は回転ヘラ削り。その後の外面、内面は回転ナデ。内面底部中央部に微微圧痕と静止ナデ有り。	密 砂粒多く含む やや硬質	青灰	青灰	6Ｃ後半	２地区 包含層	中層
35	須恵器 坏身	口径 (11.4) 受部径(14.4) 器高 4.2	横雑有回転。外面底部回転ヘラ削り。その後の外面回転ナデ。内面底部静止ナデ。その他の内面回転ナデ。	密 砂粒を多く含む 硬質	灰	灰	6Ｃ後半	２地区 包含層	中層
36	須恵器 坏身	口径 (10.4) 受部径(13.3) 器高 2.9	横雑有回転。外面底部回転ヘラ削り。その後の外面回転ナデ。内面回転ナデ。	密 細砂多量に含む 硬質	にぶい褐 黄灰	黄灰	6Ｃ後半	２地区 包含層	中層
37	須恵器 蓋	口径 (12.6)	口縁部は、折り返して厚い玉縁状をなす。内面頂部に当て具痕有り。口縁部内外面は回転ナデ。	密 細砂を少量含む 硬質	灰	灰	6Ｃ後半	２地区 包含層	中層
38	須恵器 蓋	口径 (18.0)	口縁端部に面をもち、下端をわずかに斜め下方につまみ出す。口縁部内外面は回転ナデ。	密 細砂を少量含む 硬質	灰	灰	6Ｃ後半	２地区 包含層	中層
39	須恵器 瓶	器高 [9.9]	横雑有回転。体部径9.4cm（最大）。内面回転ナデ。外面底部回転ヘラ削り。その他の外面回転ナデ。体部中位に耳環による耳文有り。上部欠失。	密 砂粒を少量含む 硬質	灰 にぶい赤褐(胎土)	灰	6Ｃ後半	２地区 包含層	中層
40	土師器 皿	口径 7.6 底径 4.0 器高 1.9	外面底部回転糸切り。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	浅黄橙	浅黄橙	13Ｃ	２地区 ＳＰ10	
41	土師器 皿	口径 8.4 底径 5.0 器高 1.5	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	密 細砂少量含む やや軟質	灰白	灰白	12Ｃ	１地区 包含層	上層
42	土師器 皿	口径 7.6 底径 4.0 器高 1.9	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	粗 細砂少量含む やや軟質	浅黄橙	浅黄橙	13Ｃ	１地区 包含層	上層
43	土師器 皿	口径 8.9 底径 5.8 器高 1.6	回転糸切り内外面ナデ調整	密 細砂多く含む やや軟質	灰白	灰白	12Ｃ	２地区 包含層	上層
44	土師器 皿	口径 (8.2) 底径 (4.4) 器高 1.9	横雑有回転。外面底部回転糸切り、板目痕有り。内外面は回転ナデ。	粗 細砂少量含む やや軟質	浅黄橙	浅黄橙	13Ｃ	２地区 包含層	上層
45	土師器 皿	口径 8.1 底径 5.1 器高 1.8	外面底部回転糸切り。内外面は回転ナデ。	粗 細砂少量含む 軟質	灰白	灰白	12Ｃ	２地区 包含層	上層
46	土師器 皿	口径 (6.8) 底径 (5.2) 器高 1.6	回転糸切り。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む 軟質	灰白	灰白	12Ｃ	２地区 ＳＫ１	
47	土師器 皿	口径 7.9 底径 4.6 器高 1.8	外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	密 細砂多量に含む やや軟質	にぶい褐	にぶい褐	13Ｃ	１地区 包含層	上層
48	土師器 皿	口径 7.6 底径 4.7 器高 1.9	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	浅黄橙	浅黄橙	13Ｃ	２地区 包含層	上層
49	土師器 皿	口径 5.6 底径 4.2 器高 1.8	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	粗 細砂少量含む やや軟質	にぶい黄橙	にぶい黄橙	13Ｃ	１地区 包含層	上層
50	土師器 皿	口径 5.2 底径 4.2 器高 1.7	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	粗 細砂少量含む やや軟質	にぶい黄橙	にぶい黄橙	13Ｃ	１地区 包含層	上層
51	土師器 皿	口径 7.8 底径 3.8 器高 1.8	外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	粗 細砂多量に含む やや軟質	灰白	灰白	12Ｃ	１地区 包含層	上層
52	土師器 皿	口径 8.0 底径 4.9 器高 1.9	外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	密 細砂少量含む やや軟質	にぶい黄橙	にぶい黄橙	13Ｃ	１地区 包含層	上層
53	土師器 皿	口径 8.4 底径 4.2 器高 1.1	回転糸切り。内外面回転ナデ。（回転方向不明）	粗 砂粒少量含む やや軟質	浅黄橙	浅黄橙	13Ｃ	１地区 包含層	上層
54	土師器 皿	口径 (7.9) 底径 4.0 器高 1.6	回転糸切り内外面ナデ調整	密 細砂多く含む やや硬質	灰白	灰白	12Ｃ	２地区 包含層	上層
55	土師器 皿	口径 9.0 底径 4.4 器高 2.3	回転糸切り内外面ナデ調整	密 細砂多く含む やや軟質	浅黄橙	淡黄	12～13Ｃ	２地区 包含層	上層
56	土師器 皿	口径 7.4 底径 3.6 器高 2.1	横雑有回転。外面底部回転糸切り、板目痕有り。内外面回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12Ｃ	１地区 包含層	上層
57	土師器 皿	口径 7.2 底径 4.1 器高 1.6	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	浅黄橙	浅黄橙	13Ｃ	２地区 包含層	上層
58	土師器 皿	口径 8.6 底径 5.0 器高 1.8	回転糸切り。外底面に糸切り後の板目痕が残る。内外面・内定面回転ナデ（回転方向不明）。内面煤付着。	密 細砂を少量含む やや軟質	にぶい橙	にぶい橙	13Ｃ	１地区 包含層	上層
59	土師器 皿	口径 8.1 底径 4.1 器高 1.8	回転糸切り。内外面回転ナデ。（回転方向不明）	粗 砂粒少量含む やや軟質	明褐灰	明褐灰	13Ｃ	１地区 包含層	上層
60	土師器 皿	口径 (9.4) 底径 4.4 器高 2.3	回転糸切り内外面ナデ調整	密 細粒多く含む やや軟質	灰白	灰白	12～13Ｃ	２地区 包含層	上層
61	土師器 皿	口径 (8.2) 底径 (4.6) 器高 (2.2)	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	浅黄橙	浅黄橙	13Ｃ	１地区 包含層	上層
62	土師器 皿	口径 8.0 底径 4.6 器高 1.9	回転糸切り。外底面に糸切り後の板目痕が残る。内外面・内定面回転ナデ（右回転）。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白色	灰白	12Ｃ	１地区 包含層	上層
63	土師器 皿	口径 8.0 底径 4.3 器高 1.5	横雑有回転。外面底部回転糸切り、板目痕有り。内外面回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12Ｃ	２地区 包含層	上層
64	土師器 皿	口径 7.8 底径 4.8 器高 1.5	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12Ｃ	２地区 包含層	上層
65	土師器 皿	器高 9.7 底径 4.6 器高 2.2	横雑有回転。外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。口縁の一部にスラグ付着。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12Ｃ	１地区 包含層	上層
66	土師器 甕	口径 14.3 底径 6.6 器高 5.3	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。	粗 細粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12Ｃ	１地区 包含層	上層

第３表　土器・土製品観察表(3)

67	土師器 椀	口径 底径 器高	13.8 5.9 5.8	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。内面煤付着。	粗 細砂少量含む やや軟質	灰褐	灰白	12C後半	1地区 包含層	上層
68	土師器 椀	口径 底径 器高	15.6 6.0 5.0	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。	密 細砂少量含 むやや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
69	土師器 椀	口径 底径 器高	16.0 5.8 5.8	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。外面口縁部付炭煤付着。	密 細砂少量含 むやや軟質	灰褐	灰褐	12C	1地区 包含層	上層
70	土師器 椀	口径 底径 器高	(15.3) 6.6 5.6	外面底部回転糸切り。貼り付け高台。内外面ナデ調整。	密 砂粒少量含む やや硬質	淡黄	淡黄	12C	1地区 包含層	上層
71	土師器 椀	口径 底径 器高	(15.8) 6.6 5.4	外面底部回転糸切り。貼り付け高台。内外面ナデ調整。	密 砂粒少量含む やや硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
72	土師器 椀	口径 底径 器高	(15.7) 6.2 5.4	外面底部回転糸切り。貼り付け高台。内外面ナデ調整。	密 砂粒少量含む やや硬質	灰白	黒	12C	2地区 包含層	上層
73	土師器 椀	口径 底径 器高	(15.6) 4.8 4.8	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面回転ナデ。	密 細砂少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
74	土師器 椀	口径 底径 器高	(13.8) 6.0 5.4	内外面は回転ナデ。底部回転糸切り。高台は貼り付け。	密 細砂少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
75	土師器 椀	口径 底径 器高	14.8 6.0 5.8	糸切り後、外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
76	土師器 椀	口径 底径 器高	15.8 6.4 5.0	糸切り後、外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
77	土師器 椀	口径 底径 器高	16.6 6.8 5.8	糸切り後、外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	11C	1地区 包含層	上層
78	土師器 椀	口径 底径 器高	(15.6) 5.4 (5.5)	糸切り後、内外面回転ナデ。底部回転糸切り。高台は貼り付け。	密 細砂少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
79	土師器 椀	口径 底径 器高	15.8 6.4 5.4	糸切り後、外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。外面底部に煤付着。	密 砂粒を少量含 むやや軟質	灰白	灰白	12C後半	1地区 包含層	上層
80	土師器 椀	口径 底径 器高	15.7 7.0 5.8	糸切り後、外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。	密 細砂を少量含 むやや軟質	灰白	灰白	12C後半	1地区 包含層	上層
81	土師器 椀	口径 底径 器高	15.7 6.4 5.1	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。外面上部に煤付着。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12～13C	1地区 包含層	上層
82	土師器 坏	口径 底径 器高	(11.6) 5.4 4.0	糸切り後、外面底部回転糸切り。内外面は回転ナデ。	粗 細砂少量含む やや軟質	灰白	灰白	13C	2地区 包含層	上層
83	土師器 坏	口径 底径 器高	13.5 3.2 4.2	糸切り後、外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	粗 細砂少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
84	土師器 坏	口径 底径 器高	(13.0) 5.8 9.3	外面底部回転糸切り、板目痕有り。内外面回転ナデ。	粗 細砂少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層	上層
85	土師器 坏	口径 底径 器高	13.6 6.4 3.6	糸切り後、外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層
86	土師器 脚付き皿	口径 底径 器高	13.5 7.0 4.0	内外面は回転ナデ。脚貼り付け。	粗 細砂少量含む 軟質	灰白	灰白	11C	2地区 包含層	上層
87	土師器 脚付き皿	口径 底径 器高	(13.0) 6.2 5.0	糸切り後、外面底部回転糸切り。内外面は回転ナデ。脚貼り付け。	粗 細砂少量含む 軟質	灰白	灰白	11C	2地区 包含層	上層
88	土師器 脚付き皿	口径 底径 器高	(12.4) 7.0 9.4	糸切り後、外面底部回転糸切り。内外面は回転ナデ。脚貼り付け。	粗 砂粒少量含む 軟質	灰白	灰白	11C	2地区 包含層	上層
89	土師器 有孔台付き皿	底径	4.0	回転糸切り。上面から下面に向かって穿孔。器台の部分以外は欠損。	密 細砂多く含む やや軟質	淡黄	淡黄	11C～13C	2地区 包含層	上層
90	土師器 有孔台付き皿	底径	(4.4)	摩滅が激しく調整不明。器台の部分以外は欠損。台部分が小さい丸い穴が開いており、現存の形は幼脚半に近い。	密 細砂多く含む やや軟質	淡黄	淡黄	11C～13C	2地区 包含層	上層
91	土師器 台付き皿	底径	4.4	回転糸切り。器台の部分以外は欠損。	密 細砂多く含む 軟質	淡黄	淡黄	11C～13C	2地区 包含層	上層
92	土師器 台付き坏	底径	(7.8)	外面底部回転糸切り。外面台部分にナデによる接が顕著に残る。内外面は回転ナデ。坏身部分欠失。	密 細砂少量含む やや軟質	灰白	灰白	11C～13C	2地区 包含層	上層
93	土師器 坏	底径	(6.8)	外面底部回転糸切り。内外面回転ナデ。底部のみ残存。	粗 砂粒少量含む やや軟質	にぶい黄橙	にぶい黄橙	12～13C	2地区 ＳＤ１	
94	土師器 椀	底径	6.6	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。底部のみ残存。	粗 砂粒少量含む 軟質	灰白	灰白	12C	2地区 ＳＰ７	
95	土師器 椀	底径	6.6	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。内面煤付着。	粗 砂粒少量含む 軟質	灰白	灰白	12C	2地区 ＳＰ10	
96	土師器 椀	底径	6.0	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12C	2地区 ＳＸ４	
97	土師器 椀	底径	6.8	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。底部のみ残存。	粗 砂粒少量含む 軟質	灰白	灰白	12C	2地区 ＳＤ１	
98	土師器 椀	底径	5.6	外面底部回転糸切り後、貼り付け高台。内外面は回転ナデ。	粗 砂粒少量含む やや軟質	灰白	灰白	12～13C	2地区 ＳＸ８	
99	土師器 椀	口径 底径 器高	(16.0) 6.0 5.2	回転糸切り後、高台を貼り付けている。内外面ともにナデ調整。内面はナデ調整後、磨き（暗文）調整を施している。	密 砂粒少量含む やや硬質	灰白	灰白	12C	1地区 包含層	上層

第４表　土器・土製品観察表(4)

100	青磁皿	底径	4.0	内面に調整文をもつ。内外面にオリーブ黄色釉薬の施釉。外面胎部付近施釉なし。	外面	細粒を少量含むやや硬質	オリーブ黄灰白(砂土)	オリーブ黄	12Cか	2地区 SP3
101	白磁梅	底径	6.0	内面に調整文をもつ。内外面施釉。	外面	細粒少量含むやや硬質	灰白	灰白	12～13C	2地区 SK5
102	青磁梅	口径 底径 器高	(14.8) 5.6 6.3	外面に横線な蕉弁文あり。見込みに「玉」字状の陽出文がみられる。外面底部以外施釉。	外面	細粒少量含むやや硬質	オリーブ灰 灰白(砂土)	オリーブ灰	13C	1地区 包含層　上層
103	青磁梅			口縁片。外面鎬蓮文有り。	外面	細粒少量含むやや硬質	緑灰 灰白(砂土)	緑灰	13C	1地区 包含層　中層
104	青磁梅	底径	(6.0)	外面鎬蓮文有り。蛇の目状高台。外面底部の蛇の目釉剥きされている部分以外の外面および内面施釉。内面底面花弁文線刻。	外面	細粒少量含むやや硬質	オリーブ灰 灰(砂土)	オリーブ灰	13C	1地区 包含層　中層
105	青磁梅	底径	6.6	内外面施釉（底部以外）。内面底部に蛇の目釉剥きを施す。	外面	細粒少量含むやや硬質	灰オリーブ	灰オリーブ	12～13C	2地区 包含層　上層
106	青磁梅	口径 底径 器高	(15.6) (6.2) 7.7	外面高台部分以外施釉。内面花文有り。	外面	細粒少量含むやや硬質	オリーブ灰 灰白(砂土)	オリーブ灰	12～13C	1地区 包含層　上層
107	白磁梅			内外面施釉。白磁玉梅梅。	外面	細粒少量含むやや硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層　上層
108	白磁梅			内外面施釉。白磁玉梅梅。	外面	細粒少量含むやや硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層　中層
109	白磁梅	器高	6.7	内面および底部以外の外面に施釉。削り出し高台。白磁玉梅梅。	外面	細粒少量含むやや硬質	灰白 灰白(砂土)	灰白	12C	2地区 包含層　上層
110	白磁皿	口径 底径 器高	(9.8) 4.1 3.0	外面底部から中位まで削り。内面および外面口縁部より中位まで施釉。その他無釉。高台究巾広高台。外面胎面に花押と みられる墨書有り。	外面	細粒少量含むやや硬質	明オリーブ灰 灰白(砂土)	明オリーブ灰	12～13C	2地区 包含層　上層
111	白磁皿	口径 底径 器高	(10.2) 4.3 2.6	外面底部から中位まで削り。その他の外面および内面刷毛目ナデ。内面および外面口縁部より中位まで施釉。その他無釉。	外面	細粒少量含むやや硬質	明オリーブ灰 灰白(砂土)	明オリーブ灰	12～13C	2地区 包含層　中層
112	青磁梅	口径 底径 器高	13.2 4.4 4.5	外面底面より上部および内面に施釉	外面	細粒少量含むやや硬質	灰オリーブ	灰オリーブ	13C	2地区 包含層　中層
113	白磁梅	底径	6.6	外面底面より上部および内面に施釉	外面	細粒少量含むやや硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層　中層
114	白磁梅	底径	7.0	内外面灰白色釉施釉。削り出し高台。	外面	細粒少量含むやや硬質	灰白	灰白	12C	2地区 包含層　中層
115	瓦質土器鍋	口径	(35.3)	口縁部は外反している。外面はハケ調整後ナデで消している。上部には櫛描圧痕が残る。内面はハケ調整をされている。	外面	砂粒を少量含むやや硬質	灰白	赤黒	12～13C	1地区 包含層　上層
116	土師器鍋	口径	(26.4)	外面底部骨子状凹き痕有り。外面ハケ調整後ナデで消している。口縁部ナデ調整。内面ハケ調整。	外面	砂粒少量含むやや硬質	浅黄橙	浅黄橙	14～15C	2地区 SK1
117	瓦質土器鍋	口径	(34.0)	口縁部は外反している。外面上部に櫛目痕。外面口縁部ナデ調整、指頭圧痕有り。それ以外の外面ハケ調整。内面ハケ調整。	外面	砂粒多量に含むやや硬質	灰白	灰白	12～13C	1地区 包含層　上層
118	瓦質土器羽釜	口径	(27.0)	鍔は貼り付けでヨコナデで調整されている。外面上部には櫛目圧痕が残る。粗い横方向のハケ調整後、縦方向にハケ調整されている。外面全体に煤が付着。内面には ハケ調整の痕が残存に残る。	外面	砂粒多量に含むやや硬質	黒	黒	13C	1地区 包含層　上層
119	瓦質土器羽釜	口径	(27.0)	鍔は貼り付けでヨコナデで調整されている。外面上部には櫛目圧痕が残る。ハケ調整後、その一部をナデで消している。外面全体に煤が付着。内面には ハケ調整の痕が顕著に残る。	外面	砂粒多量に含むやや硬質	黒	黒	13C	1地区 包含層　上層
120	瓦質土器羽釜	口径	(27.0)	鍔は貼り付けでヨコナデで調整されている。外面上部には櫛目痕が残る。粗い横方向のハケ調整後、縦方向にハケ調整し、ナデで一部消している。全体に煤が付着している。内面にはハケ調整の痕が顕著に残る。	外面	砂粒を少量含むやや硬質	黒	黒	13C	1地区 包含層　上層
121	瓦質土器羽釜	口径	(28.6)	鍔は貼り付けでヨコナデで調整されている。外面上部には櫛目痕が残る。横ハケ調整後、縦方向にハケ調整後、縦方向にハケ調整されている。外面に煤が付着している。鍔上部に櫛目痕が残る。	外面	砂粒を少量含むやや硬質	褐灰	黒灰(中・下位)	13C	1地区 包含層　上層
122	瓦質土器羽釜	口径	(31.6)	鍔は貼り付けでヨコナデで調整されている。外面粗い横方向のハケ調整後縦方向にハケ調整し、ナデで一部消している。外面下部指ナデ痕跡を残す。外面全体に煤が付着している。内面には ハケ調整の痕が顕著に残る。	外面	砂粒少量含むやや硬質	褐灰	黒	13C	1地区 包含層　上層
123	瓦質土器羽釜	口径	(32.4)	鍔は貼り付けでヨコナデで調整されている。外面上部には櫛目痕が残る。粗い横方向のハケ調整後、縦方向にハケ調整し、一部をナデで消している。全体に煤が付着している。内面にはハケ調整の痕が顕著に残る。	外面	砂粒を少量含むやや硬質	黒	黒	13C	1地区 包含層　上層
124	瓦質土器足つき羽釜	口径 器高	(22.4) 21.2	鍔は貼り付けでヨコナデで調整されている。外面上部には櫛目痕が残る。外面下部はナデを後、ハケ調整し、ナデで一部消している。全体に煤が付着している。脚部は縦やかに消面した痕跡である。櫛面圧痕が顕著に見受けられる。内面はハケ調整。	外面	砂粒を少量含むやや硬質	褐灰	黒	13C	1地区 包含層　上層
125	瓦質土器足釜			脚部の大残る。脚部は縦やかに消面した痕跡である。櫛面圧痕が顕著に見受けられる。	外面	砂粒を少量含むやや硬質	灰白	14～15C	1地区 包含層　上層
126	瓦質土器擂り鉢			外面ナデ調整。内面ハケ後、櫛。	外面	細粒少量含むやや硬質	灰白	明褐灰	15C	2地区 包含層　上層
127	瓦質土器擂り鉢	底径	(17.6)	外面ハケ調整後、ナデで消している。内面ハケ調整後、6本を単位とする刷毛目あり。	外面	砂粒少量含む軟質	灰白	黒	13～14C	2地区 SP34
128	瓦質土器擂り鉢	口径 底径 器高	25.7 10.0 11.9	そそぎ口有り。外面底面指圧痕有り。外面底部から中位にかけて格子状の網目。櫛面圧痕有り。外面中位から上位にかけてハケ調整後ナデで消している。口縁部内外面ナデ調整。内面ハケ調整。内面底面ナデ。	外面	細粒少量含む軟質	灰白	灰	13～14C	1地区 包含層　上層
129	瓦質土器擂り鉢	口径 底径 器高	(29.0) (10.3) 10.2	内外面は指圧から中位まで回転ナデ。その他表面剥落のため調整不明。	外面	砂粒を少量含む軟質	灰	灰	13～14C	2地区 包含層　上層
130	瓦質土器擂り鉢	口径 底径 器高	19.1 8.6 9.8	外面ハケ調整後、ナデで消している。内面ハケ調整。	外面	細粒少量含むやや硬質	灰	灰黄	15C	2地区 SE1
131	瓦質土器擂り鉢	口径 底径 器高	(31.0) (10.0) (9.2)	外面ハケ調整後、一部ナデで消している。内面刷毛目ナデ。	外面	細粒少量含むやや硬質	黒褐	灰白	15C	1地区 包含層　上層
132	瓦質土器鍋	口径	(33.5)	口縁部は大きく外反し、鍔部は強く張り出す。外面口縁部はナデ調整。外面胴部は粗い横へのハケ調整後、縦方向のハケ調整を施す。鍔部下と胴部は縦のみある。内面はハケ調整。胴部付近に櫛圧痕がある。	外面	砂粒を少量含むやや硬質	黒	黒	15C	2地区 包含層　上層

第5表　土器・土製品観察表(5)

133	土製品 輪羽口	長さ 幅	(12.3) [7.8]	孔径2.8cm（最大）。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。外面溶融圧痕有り。割れ口に粘土紐状の跡有り。	砂粒を多く含む 硬質	橙	にぶい橙	不明	1地区 包含層	中層
134	土製品 輪羽口	長さ 幅	(11.9) [8.6]	孔径3.0cm（最大）。下半分欠失。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。	砂粒を多く含む 硬質	赤褐	灰白	不明	1地区 包含層	中層
135	土製品 輪羽口	長さ 幅	(13.5) 9.0	孔径2.7cm（最大）。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。	砂粒を多く含む 硬質	にぶい赤褐	灰黄	不明	1地区 包含層	中層
136	土製品 輪羽口	長さ 幅	(10.5) [10.3]	孔径2.8cm（最大）。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。下半部欠失。	砂粒を多く含む 硬質	橙	灰黄	不明	1地区 包含層	中層
137	土製品 輪羽口	長さ 幅	[8.7] [9.1]	孔径3.0cm（最大）。下半分欠失。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。	砂粒を多く含む 硬質	明赤褐	明黄褐	不明	1地区 包含層	中層
138	土製品 輪羽口	長さ 幅	(13.4) [8.6]	孔径3.1cm（最大）。下半分欠失。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。外面に溶融圧痕が顕著に確認できる。	砂粒を多く含む 硬質	にぶい赤褐	灰黄	不明	1地区 包含層	中層
139	土製品 輪羽口	長さ 幅	(14.3) [8.9]	孔径2.7cm（最大）。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。	砂粒を多く含む 硬質	にぶい赤褐	灰褐	不明	1地区 包含層	中層
140	土製品 輪羽口	長さ 幅	[15.0] [8.5]	孔径2.7cm（最大）。先端部は、溶融・発泡し、スラグが付着する。	砂粒を多く含む やや軟質	橙	橙	不明	1地区 包含層	中層
141	土師器 土玉	長軸 短軸 厚さ	3.0 2.8 2.2	摩滅が激しく調整不明。孔は貫通している。	砂粒を少量含む むやや軟質	にぶい黄橙	不明	2地区 包含層	中層	
142	土師器 土錘	幅	1.3	溶融圧痕が残る管状土錘である。	砂粒多く含む やや軟質	淡黄	淡黄	不明	2地区 包含層	上層

第6表　鉄製品観察表

挿図・図版 番号	器種 器形	法量 cm （ ）は残存値 [ ]は現状値		特徴	重量(g)	時期	出土地点	
143	鉄製品 鉄	径	2.4	永楽通寶。正規銭に比べやや小型。銭貨鉄の可能性あり。	1.3	中世～近世初	1地区 包含層	上層
144	鉄製品 釘	長さ 幅 厚さ	4.4 0.7 0.5	腐食が激しく、軽い。鍛造品と思われる。	3.2	不明	2地区 包含層	中層
145	鉄製品 棧	長さ 幅 厚さ	5.8 1.7 0.6	鉄鏃の付着が激しい。鍛造品と思われる。	34.6	不明	2地区 包含層	中層
146	鉄製品 棧	長さ 幅 厚さ	7.3 1.9 1.0	鉄鏃の付着が激しい。鍛造品と思われる。	100.1	不明	2地区 包含層	中層
147	鉄器 鉄斧	長さ 幅 厚さ	[8.3] [4.0] [2.0]	腐食が激しく、もろい。基部が袋状に膨らんでいる。	58.2	不明	1地区 包含層	上層

第7表　木製品観察表(1)

挿図・図版 番号	器種 器形	法量 cm （ ）は現完値 [ ]は既存値		特徴	時期	出土地点	
148	木製品 木棒（鏃の子）	長さ 幅	12.8 [5.9]	表皮剥離ヶ所有り。	不明	2地区 包含層	中層
149	木製品 木棒（鏃の子）	長さ 幅 厚さ	15.1 7.1 6.1	中心部で折れている。中央部表皮剥離部分有り。丸木の両端を切断した後、簡単に整形し、中央部は両端方向から細くなるように削りだし、くびれる。	不明	2地区 包含層	中層
150	木製品 木棒（鏃の子）	長さ 幅 厚さ	[9.5] [5.4] 5.2	左半分欠失。表皮剥離部分有り。丸木の両端を切断した後、簡単に整形し、中央部に向かって細くなるように削りだし、くびれる。	不明	2地区 包含層	中層
151	木製品 木棒（鏃の子）	長さ 幅 厚さ	16.5 2.4 2.3	丸木の両端を切断した後、簡単に整形し、中央部は両端方向から細くなるように削りだし、くびれる。	不明	2地区 包含層	上層
152	木製品	長さ 幅 厚さ	23.4 6.7 0.6	穿孔有り。穿孔の底径3mm。下半部欠失。本礼もしくは板か。	不明	2地区 包含層	中層
153	木製品 しゃもじ	長さ 幅・身 幅・柄	20.2 [7.3] 3.1	厚さ・身0.85cm、厚さ・柄1.1cm。漆塗りの可能性有り。	不明	2地区 包含層	上層
154	木製品	長さ 幅 厚さ	[10.9] 3.5 1.7	釘有り。	不明	2地区 包含層	中層
155	木製品 曲げ物	長径	15.7	楕円形。厚さ1.1cm(最大)用途不明。	不明	2地区 包含層	上層
156	木製品 曲げ物(蓋)	径 厚さ	(17.2) 0.8	目釘の穴2ヶ所有り。左半分欠失。	不明	2地区 包含層	中層
157	木製品 曲げ物	長径 厚さ	(15.2) 0.7	楕円形。左半分欠失。用途不明。	不明	2地区 包含層	中層
158	木製品	長さ	[46.9]	幅7.5cm（最大）厚さ1.9cm（最大）柄の根2.1cm先端部付近に釘孔と思われる細い未貫通の傷み有り。用途不明。	不明	2地区 包含層	中層
159	木製品 下駄（一木造曲）	長さ 幅	[18.7] [6.9]	高さ5.7cm（最大）厚さ1.4cm（本体）2枚曲を削り出す。左半分欠失。穿孔1ヶ所有り。2ヶ所欠失。	不明	2地区 包含層	上層
160	木製品 下駄（一木造曲）	長さ 幅	19.3 [6.3]	高さ2.6cm（最大）厚さ1.5cm（本体）右足用の下駄。2枚曲を削り出すが、後ろ側の方が摩耗が激しい。右半分欠失。穿孔2ヶ所有り。1ヶ所欠失。使用による摩耗により、履物等の使用痕を推測できる。	不明	2地区 包含層	上層
161	木製品 下駄（一木造曲）	長さ 幅	[18.9] [6.5]	高さ5.5cm（最大）厚さ1.5cm（本体）2枚曲を削り出す。右半分欠失。穿孔1ヶ所有り。2ヶ所欠失。	不明	2地区 包含層	上層
162	木製品 下駄（一木造曲）	長さ 幅	[15.3] [3.4]	高さ3.4cm（最大）厚さ1.7cm（本体）小振りの下駄。2枚曲を削り出す。穿孔1ヶ所有り。2ヶ所欠失。	不明	2地区 包含層	上層

第８表　木製品観察表(2)

163	木製品 下駄（ 木歯痕）	長さ 幅	13.7 9.6	高さ2.0cm（最大）厚さ1.2cm（本体）２枚歯を削り出すが摩耗が激しく、一部損傷している。穿孔３ヶ所有り。穿孔部分一部欠失。小振りな下駄。	不明	２地区 包含層	中層
164	木製品 下駄（ 木歯痕）	長さ 幅	[21.6] [5.6]	高さ3.3cm（最大）厚さ1.6cm（本体）２枚歯を削り出す。穿孔部分は欠失している。	不明	２地区 包含層	上層
165	木製品 下駄（ 木歯痕）	長さ 幅	[20.0] [5.2]	高さ2.2cm（最大）厚さ1.4cm（本体）２枚歯を削り出すが、前歯は折損、後ろ歯も摩耗が激しい。穿孔２ヶ所有り。１ヶ所は前歯補修のための穿孔の可能性あり。	不明	２地区 包含層	中層
166	木製品 下駄（ 木歯痕）	長さ 幅	[18.7] [3.5]	高さ6.0cm厚さ1.6cm（本体）２枚歯を削り出すが、後ろ側は折損している。穿孔１ヶ所有り。２ヶ所欠失。	不明	２地区 包含層	中層
167	木製品 下駄（ 木歯痕）	長さ 幅	[18.6] [4.2]	高さ3.1cm（最大）厚さ2.2cm（本体）穿孔１ヶ所有り。欠失部分多し。２枚歯を削り出すが、摩耗、剥損が激しい。	不明	２地区 包含層	中層

第９表　石製品観察表

挿図・図版番号	器種 器形	法量cm （）は残存値	特徴	重量(g)	色調（外面）	時期	出土地点
168	石製品 叩き石	長さ 13.5 幅 11.8 厚さ 7.3	側面三方に敲打痕が確認できる。大きな傷みは上面と下面の二方向である。石材は閃緑岩。	1730	灰白	弥生病期～中期	１地区 包含層　下層
169	石製品 叩き石	長さ 12.5 幅 9.3 厚さ 5.5	側面三方に敲打痕が確認できる。大きな傷みは上面と下面の二方向である。石材は閃緑岩。	1000	灰白	弥生病期～中期	１地区 包含層　上層
170	石製品 大型石工T	長さ 8.3 幅 4.0 厚さ 0.4	石材は泥岩。穿孔未完１ヶ所有り。穿孔部破損。	24.7	暗灰	弥生病期末	１地区 包含層　下層
171	石製品 船刃石砥	幅 6.7	磨きの痕が残る。石材は、凝灰岩。	147.3	灰白	弥生病期～中期	１地区 包含層　中層
172	石製品 管玉	長さ 2.2 幅 0.8	石材は滑石。完形で巻面は丁寧に研磨されている。	3.2	緑	６Ｃ	２地区 包含層　上層
173	石製品 紡石	長さ [7.6]	両面すべて使用痕を確認できる。一面はスラダが付着しており測定不能。石材は砂岩。	141.2	灰白	不明	１地区 包含層　中層
174	石製品 滑石製品	口径 [18.0]	口縁部の四方に幅広型平のついた稜、把手断面は楕円である。内面に土器９点し の痕が残る。外面は細かく研磨がかけられている。	黒 灰白（内面）	11Ｃ	４地区 包含層　上層
175	石製品 滑石製模 孔円錐	長軸 20.0 短軸 1.8 厚さ 0.3	中央穿孔。完形。穿孔の直径は１mm。	2	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
176	石製品 滑石製模 孔円錐	長軸 2.9 短軸 2.7 厚さ 0.3	端部穿孔。完形。	7.4	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
177	石製品 滑石製模 逸品	長軸 6.0 短軸 [3.6] 厚さ 0.9	中央穿孔。穿孔の直径は３mm。一部欠損。	33.5	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
178	石製品 滑石製紡 錘車	長軸 5.1 短軸 5.0 厚さ 1.2	中央穿孔。穿孔の直径は5.5mm。	32	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
179	石製品 滑石製品	長軸 4.0 短軸 3.3 厚さ 1.0	石錘と推察される。表に断った溝があり、裏面にも方向の異なる浅い溝がある。	21.5	灰	６Ｃ	１地区 包含層　中層
180	石製品有 孔滑石製 品	長軸 6.1 短軸 2.2 厚さ 0.7	端部穿孔。完形。側彩。穿孔の直径２mm。	18.6	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
181	石製品 滑石製模 逸品	長さ 2.6 幅 1.8 厚さ 0.4	穿孔なし。下半部欠損。幽彩か。	3.3	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
182	石製品 有孔滑石 製品	長軸 3.3 短軸 2.3 厚さ 0.5	端部穿孔。完形。盾彩。穿孔の直径１mm。	7.1	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
183	石製品 有孔滑石 製品	長軸 4.2 短軸 2.5 厚さ 0.6	端部穿孔。一部欠損。盾彩。穿孔の直径２mm。	10.2	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
184	石製品 有孔滑石 製品	長さ [3.3] 幅 2.8 厚さ 0.5	端部穿孔。上端部欠損。幽彩。穿孔の直径２mm。	8.9	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
185	石製品 有孔滑石 製品	長軸 [2.5] 短軸 [2.6] 厚さ 0.5	端部穿孔。下半部欠損。盾彩か。穿孔の直径１mm。	6.7	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
186	石製品 有孔滑石 製品	長軸 [3.1] 短軸 [2.1] 厚さ 0.6	端部穿孔。下半部、上端部欠損。幽彩か。穿孔の直径１mm。	5.4	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
187	石製品 有孔滑石 製品	長軸 [3.5] 短軸 [2.6] 厚さ 0.6	端部穿孔。下半部、上端部欠損。幽彩か。穿孔の直径１mm。	9.3	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
188	石製品 有孔滑石 製品	長軸 4.8 短軸 3.8 厚さ 0.9	端部穿孔。完形。幽彩。穿孔の直径２mm。	21.6	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
189	石製品 有孔滑石 製品	長軸 [5.6] 短軸 4.8 厚さ 1.0	端部穿孔。上端部欠損。穿孔の直径２mm。	42.5	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
190	石製品 滑石製品	長軸 9.4 短軸 [5.3] 厚さ [1.2]	欠損部分が多く用途不明。穿孔部分が破損しているが、その大きさからかなり大型のせいひんであったと推察できる。	91.8	灰	６Ｃ	１地区 包含層　中層
191	石製品 有孔滑石 製品	長軸 [5.6] 短軸 3.7 厚さ 0.8	端部穿孔。上端部欠損。盾彩。穿孔の直径２mm。	27.9	灰	６Ｃ	１地区 包含層　中層
192	石製品 有孔滑石 製品	長軸 [6.4] 短軸 6.4 厚さ 9.5	端部穿孔。一部欠損。盾彩。穿孔の直径２mm。	46	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
193	石製品 滑石製模 逸品	長軸 3.4 短軸 1.7 厚さ 0.5	勾玉形の模造品。端部穿孔。	7.3	灰	６Ｃ	２地区 包含層　中層
194	石製品 石錘	長さ 2.4 厚さ 0.5	両基無茎式で周縁の粗い調整の後、刃部は細かく調整を施す。基部石剛先端部をわずかに欠失。石材は珪質片岩。	1.3	灰黄	弥生	２地区 包含層　上層
195	石製品 石錘	長さ 2.3 厚さ 0.4	完形。両基無茎式で周縁の粗い調整の後、刃部は細かく調整を施す。石材は珪質片岩。	1	灰黄	弥生	２地区 包含層　中層

V まとめ

今回の調査では、掘立柱建物２棟、土坑13基、井戸１基、溝１条、不明遺構８基、柱穴約200個の遺構が確認された。これらは、調査区の北西側から南東側にのびると考えられる舌状の狭い遺構面上(南北に約30ｍ、東西約37ｍ)に展開し、集落を形成する。遺構より出土した遺物は、弥生時代中期、12～13世紀頃、14～15世紀頃の遺物で、この地において、弥生時代中期から中世まで断続的に人々のくらしが営まれたことをうかがわせる。この集落跡を挟むように北側から東側及び南西側には、調査区の大半を占める一帯には遺物包含層が堆積しており、掘り込みの結果、河川跡を検出した。このことから、大崎遺跡（木船地区）は河川に岬状にはり出した場所に立地する集落跡といえよう。調査により、この河川は集落跡の北西側に細長く入り込んでいることがわかった。遺跡周辺の川岸はかなり入り組んでいたと推定される。遺物包含層からは、上位層より14～15世紀頃の土師器や瓦質土器、その下から12～13世紀頃の土師器・瓦質土器・磁器・木製品・フイゴ羽口・スラグ、中位層より６世紀後半の須恵器、旧河川内の岸付近および河川最下層付近より弥生土器など、多量の遺物が出土した。しかし、調査前の試掘において発見された縄文土器は、今回の調査では検出されなかった。これらの事実の意味することを遺跡周辺の旧地形および周辺の環境から、本遺跡の性格について考察していく。

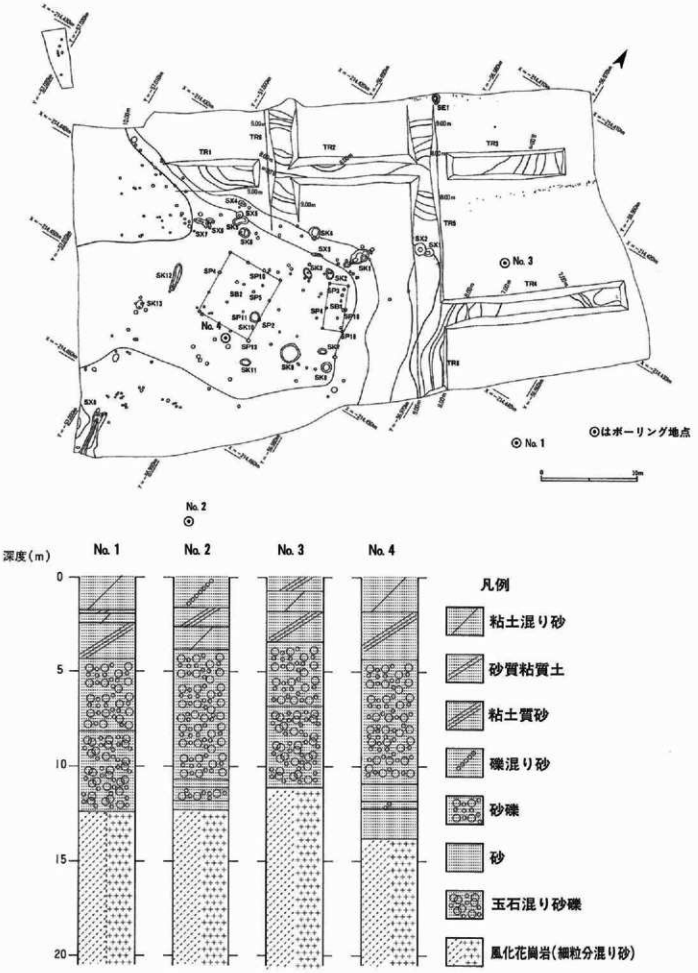
遺跡周辺のボーリング調査（第25図）により、表土から11～14ｍの深さまで、砂礫・玉石混じり砂礫の堆積が認められ、本遺跡は、西目山（312ｍ）の南麓の旧河川の北岸付近に形成された沖積地上に立地したものと考えられる。調査により、旧河川の一部を検出したが、河川の規模を確認することはできなかった。しかし、中世以前の海岸線が遺跡の南方約１kmの地点まで迫っていたと推定されることから、遺跡付近は河口に近い場所であったと考えられる。また、２地区の南約130ｍの地点で実施された山口県教育委員会による試掘の結果によると、表土より3.25ｍ下まで旧河川とほぼ同様の土層であることから、遺跡の南側を流れる現在の剣川（川幅15ｍ程度）より川幅が広かった可能性が高い。

以上のことから、「このあたりには昔船着き場があった。」という古老の話や、この地の小字名「木船」そして、調査区内の入り組んだ川岸、岸から投棄されたように検出された弥生土器や岸付近の柱穴や掘立柱建物の存在などと合わせて考えると、本遺跡には船着き場が存在し、それに関係する施設も存在していた可能性はあると考える。

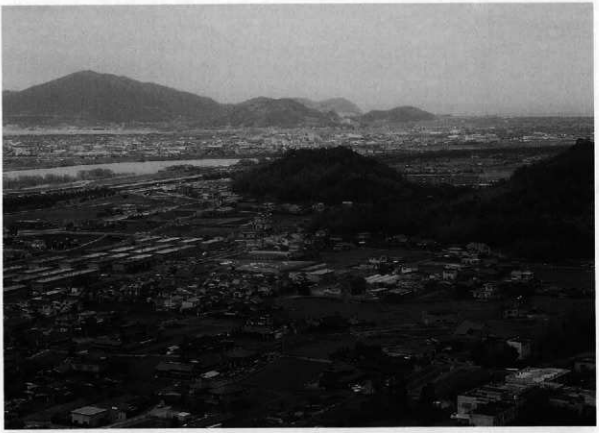
遺跡の西側約500ｍの丘陵に大崎遺跡（弥生時代）があるが、弥生時代の土坑１基を検出し、旧河川を広く覆っている遺物包含層から弥生土器が多数出土した本遺跡との関連については不明であるが、弥生時代の集落は遺跡の西方に広がる可能性は高いと推定する。

旧河川内の岸近くにおいて、12～13世紀頃の土器とともに、多数のフイゴ羽口やスラグが出土した。破片は大きく、近い場所から投棄された可能性もあり、金属製品生産に関わる遺構の確認はできなかったが、12・13世紀には、河川または低湿地に面したこの地または周辺において、金属製品の生産が行われていた可能性は考慮する必要がある。

参考文献
防府市　『防府市史 資料Ⅰ』　1994年
山口県教育委員会　『奥正願寺遺跡Ⅱ　大崎岡古墳群　大崎遺跡』　1985年



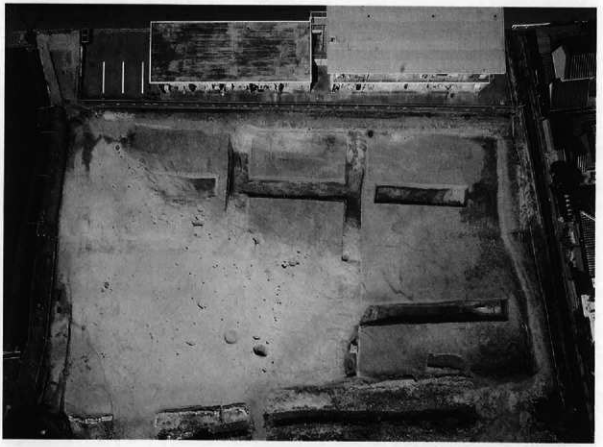
第25図　ボーリング実施位置及びボーリング柱状図



北東より大崎遺跡を望む

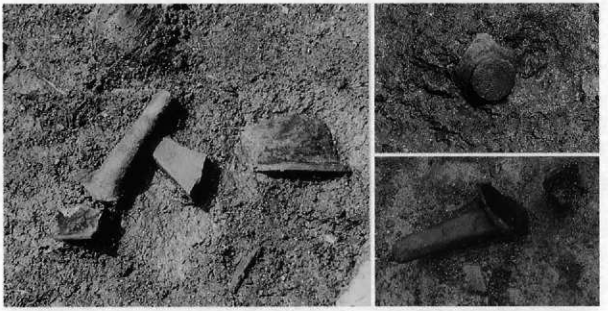
1地区全景（東より）

図版2



2地区全景（南より）

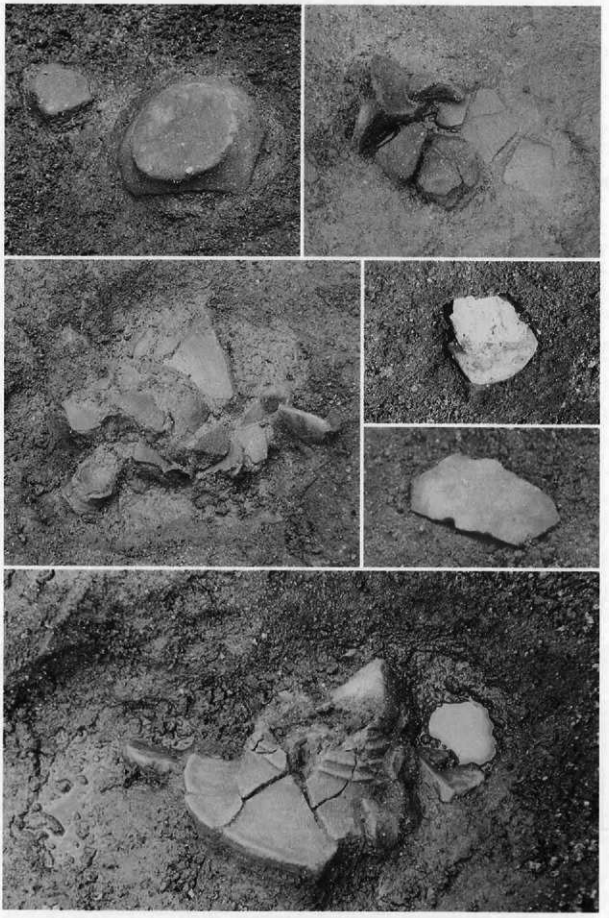
2地区西側（南より）



（上層）

（中層）

1地区遺物包含層内遺物出土状況①



1地区遺物包含層内遺物出土状況②（下層）

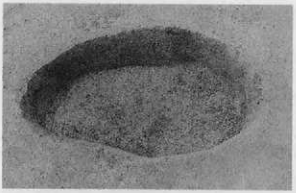
1 地区杭列検出状況①（南より）

1 地区杭列検出状況②（南より）

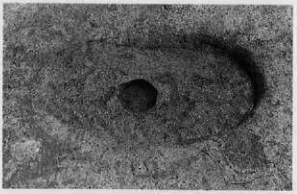
1 地区杭列内遺物出土状況

1 地区杭列検出状況③（西より）

図版6



SK11完掘（南より）

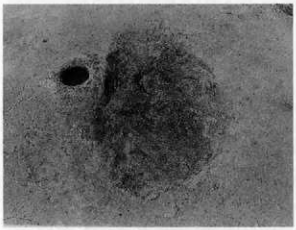


SK 3 完掘（南より）

SE 1 遺物出土状況（北東より）

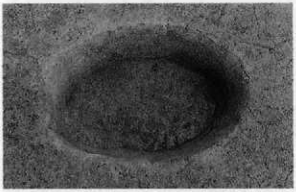
SE 1 完掘（北東より）

SE 1 完掘　細部（南より）



SK 2 完掘（南より）

SK 4 完掘（東より）

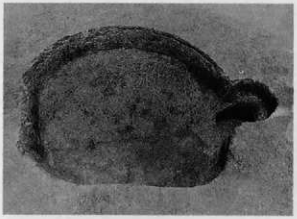


SK 7 完掘（南より）

SK13完掘（西より）

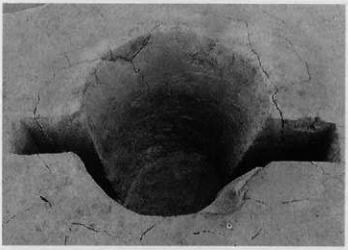
SK 1 遺物出土状況（東より）

図版 8



SK10完掘（南より）

SK 6 完掘（北より）



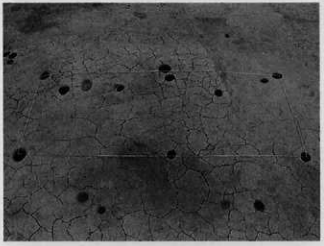
SK 8 完掘（南より）

SK 5 遺物出土状況（東より）

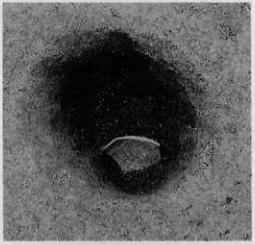
SK 9 遺物出土状況（南より）

SK 9 遺物出土状況　細部（東より）

SB 2（南より）



SB 1（西より）



SP 3 遺物出土状況（北より）

SP 7 遺物出土状況（東より）

SP10遺物出土状況（南より）

SX 6・7 完掘（東より）

SX 3 完掘（南より）

SX 5 完掘（南より）

SX 8 ・SD 1 遺物出土状況（南より）

SD 1 土層断面（東より）

SD 1 土層断面（北より）

TR 5 完掘（北より）

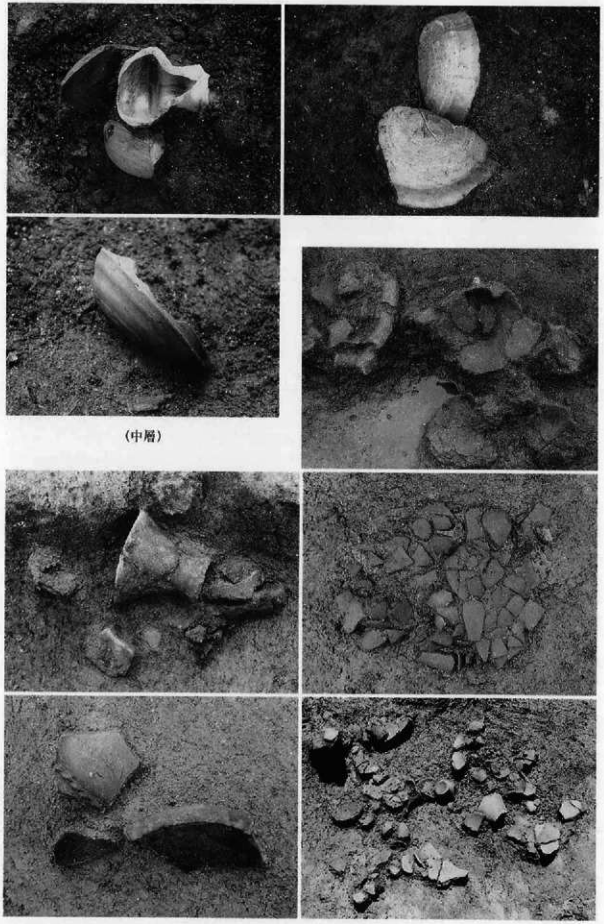
TR 3 完掘（東より）

TR 4 完掘（西より）

TR 4 北西壁土層断面（南より）

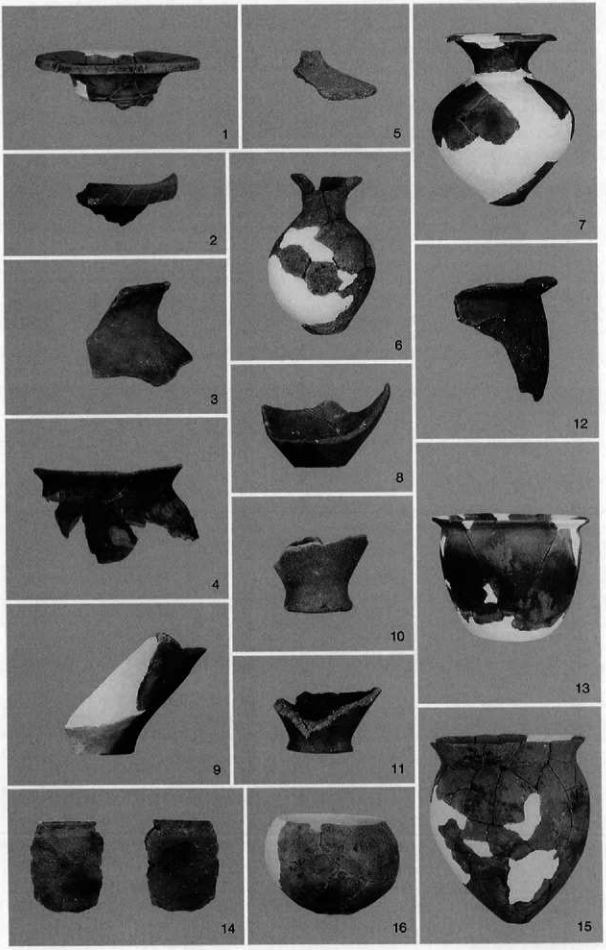
TR 5 北東壁土層断面（西より）

2 地区遺物包含層内遺物出土状況①（上層）

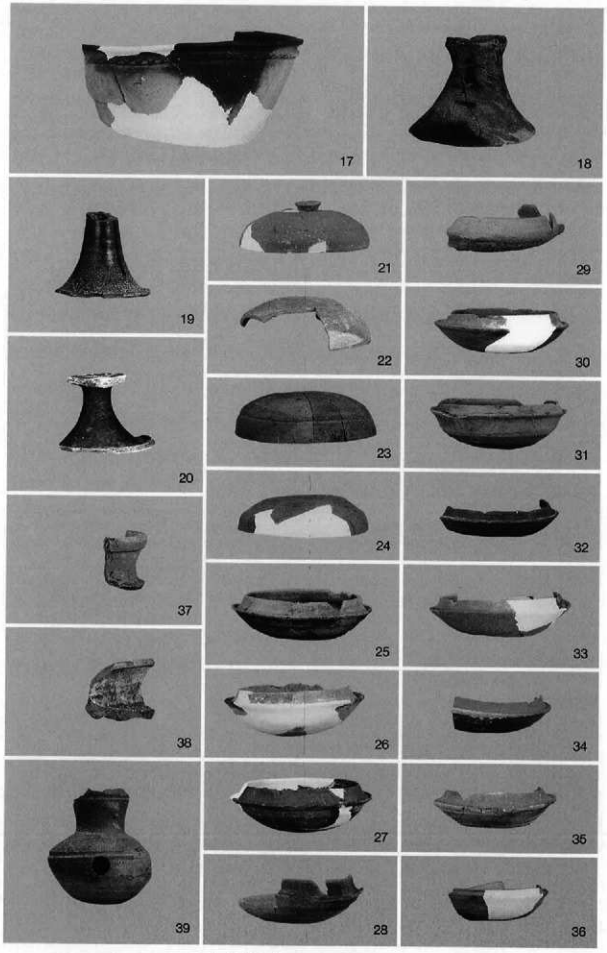


(中層)

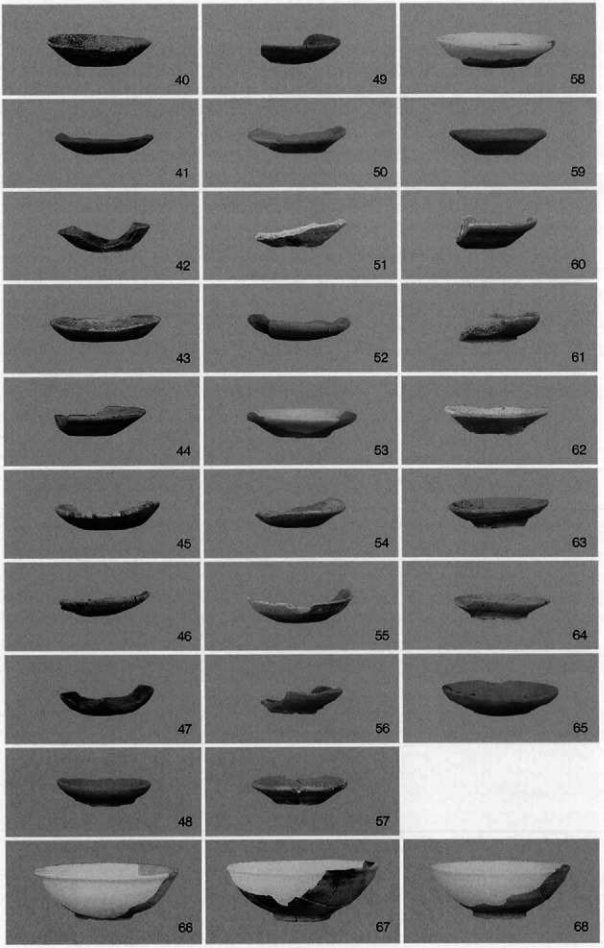
2 地区遺物包含層内遺物出土状況② (下層)



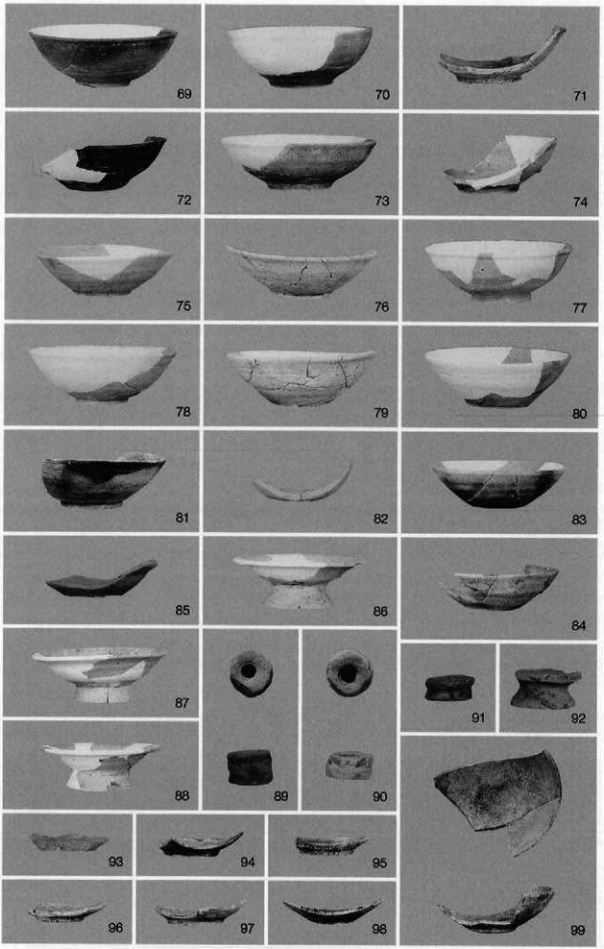
出土遺物（弥生土器）



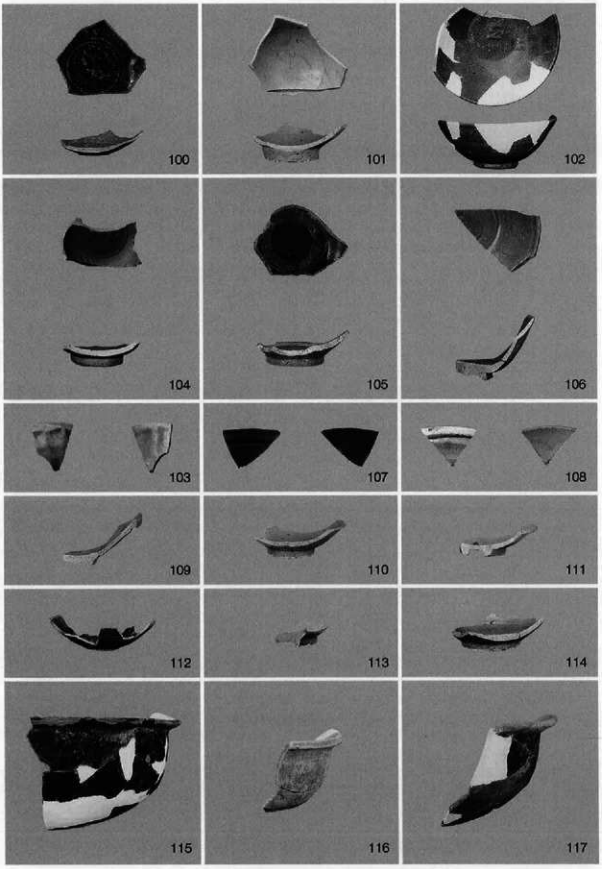
出土遺物（弥生土器・須恵器）


40
49
58
41
50
59
42
51
60
43
52
61
44
53
62
45
54
63
46
55
64
47
56
65
48
57
66
67
68

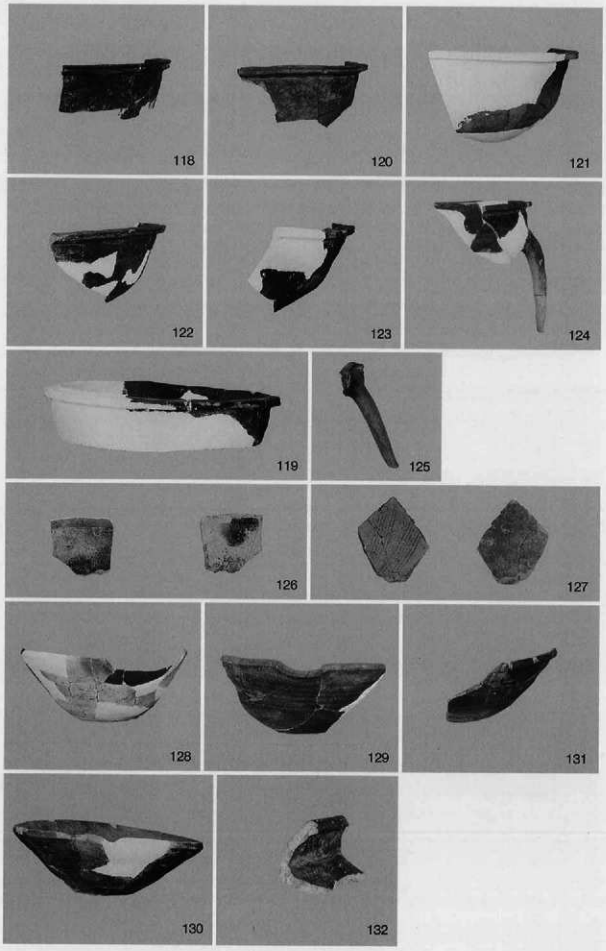
出土遺物（土師器１）


69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
85
86
84
87
91
92
88
89
90
93
94
95
96
97
98
99

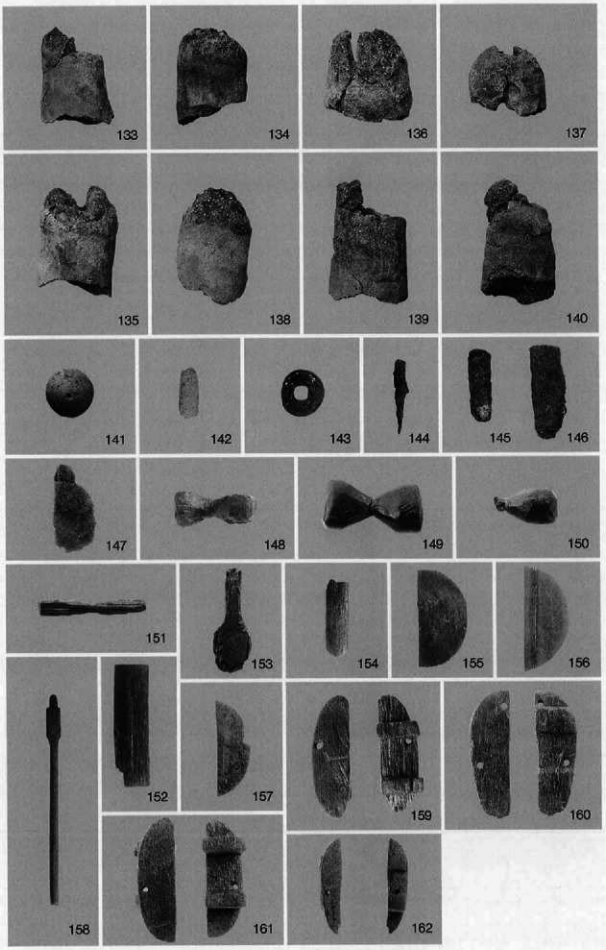
出土遺物（土師器 2）



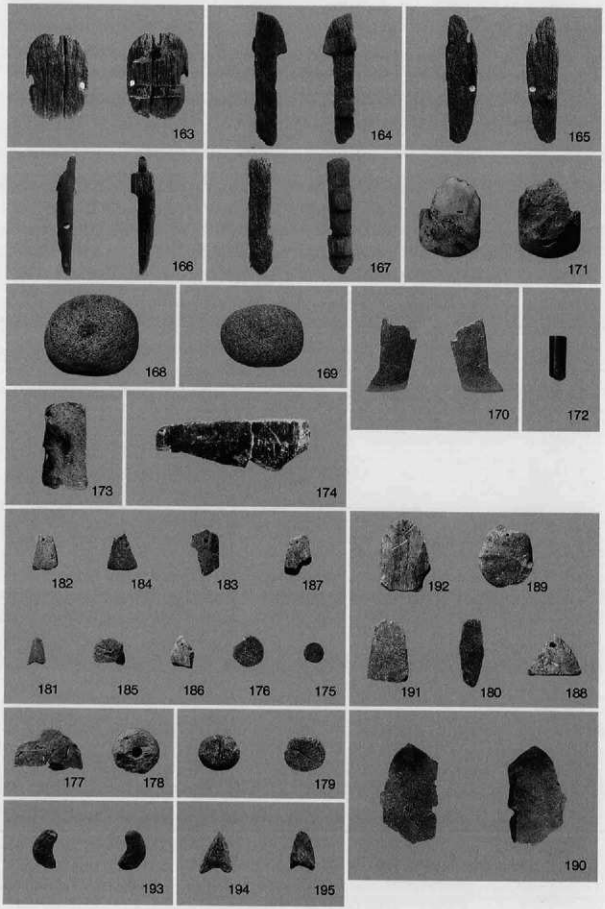
出土遺物（磁器・土師器・瓦質土器）



出土遺物（瓦質土器）



出土遺物（土製品・鉄製品・木製品）


163
164
165
166
167
171
168
169
170
172
173
174
182
184
183
187
192
189
181
185
186
176
175
191
180
188
177
178
179
190
193
194
195

出土遺物（木製品・石製品）

報告書抄録

ふりがな	おおさきいせき（きふねちく）
書名	大崎遺跡（木船地区）
副書名	
巻次	
シリーズ名	山口県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第22集
編集著者名	西田　宏　西尾　健司
編集機関	山口県埋蔵文化財センター
所在地	〒753-0073　山口県山口市泰日町３-22　TEL083-923-1060
発行年月日	西暦2001年３月23日（平成13年３月23日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
大崎遺跡 （木船地区）	山口県防府市 大字大崎	35206		34°4′0″	131°33′0″	20000508 ～ 20000929	2,800	県営住宅 建築工事

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大崎遺跡 （木船地区）	集落跡	弥生時代 古代 中世	掘立柱建物　2棟 土坑　13基 井戸　1基 溝　1条 不明遺構　8基 柱穴　約200個	弥生土器 須恵器 土師器 瓦質土器 磁器 土製品（紡羽口） 木製品（下駄・槌の子・曲げ物） 石製品（敲石・磨製石斧・管玉・滑石製模造品・石鏃・石鍋） 鉄製品	河川に面して展開した弥生時代～中世にかけての集落跡を確認した。

山口県埋蔵文化財センター調査報告　第22集

大崎遺跡（木船地区）

２００１年３月

財団法人山口県教育財団
編集・発行　山口県埋蔵文化財センター
〒753-0073山口市春日町３－22

印刷　大村印刷株式会社
（防府市西仁井令一丁目21－55）